



**No.61・62**

**Bulletin**

**of**

**Akita**

**Museum**

**of**

**Modern Art**

**秋田県立近代美術館**



**No.61・62**

**Bulletin**

**of**

**Akita**

**Museum**

**of**

**Modern Art**

**秋田県立近代美術館**

目次

- 2 — 論考  
仲町 啓子 (秋田県立近代美術館 特任館長)  
模写二題
- 9 — 鈴木 京 (秋田県立近代美術館 主査(兼)学芸主事)  
平福穂庵筆「乞食図」をめぐる人物と制作背景
- 25 — 奈良 香 (秋田県立近代美術館 学芸主事)  
2025 コレクション展 第2期「三浦明範 VERITAS」開催記念  
洋画家・三浦明範氏インタビュー
- 32 — 2024・2025年 県内展覧会開催一覧  
担当 | 鈴木 京 (秋田県立近代美術館 主査(兼)学芸主事)

題に「模写」という語を用いたが、ここに紹介する二作品は、単なる絵画修業あるいは試作的な意味での模写ではない。元となった作品があるため模写の語を用いたが、いずれも完成度の高い作品である。しかも、作品の良否だけでなく、次に述べるように絵画史的に見ても興味深い情報を提供している。

## 三森山静筆《雪月花》(図1)

本作を描いた三森山静(1864-1920)は、秋田県に生まれ同県角館出身の平福穂庵(1844-1890)に師事し、その「三羽ガラス」とも言われた。基本的に師の作風を継承した作品を多く残した彼にとって、酒井抱一(1761-1829)の《雪月花》(静岡・MOA美術館蔵)(図2)に拠った本作はかなり異色の作と言えよう。

本作には落款も印章もないが、昭和11年(1936)7月26日の「第四回秋田信託名畫展覽會」への出品を示す一札(図3)と昭和37年(1962)7月17日～8月12日まで秋田市美術館<sup>1</sup>で陳列されたことを示す一札(図4)が付属し、後者には「雪月花 三幅対 三森山静筆」と記されている。また箱の表書(図5)は「雪月花 抱一圖 山静筆 三幅」である。「秋田信託名畫展覽會」とは、奈良磐松(1879-1961、号・雪松)が社長を務めていた秋田信託銀行(のち秋田銀行に吸収合併)が行った展覧会で、奈良磐松に支援を受けていたのが縁で山静の作品が出品されたとすれば、同展の関係者が認めた「山静筆」の同定はかなり信憑性が高い。また奈良磐松は書画コレクターとしても知られ、山静はその書画の選定にも関わっていた。磐松と先代とが収集した書画は『松雪鑑賞』として出版されている。ただし現在伝わっているものの中に未だ抱一画は見出されていない<sup>2</sup>。何らかの事情で落款等を欠いてはいるが、上記のような事情を踏まえるなら《雪月花》は山静の作と考えて間違いなさそうである。

両作の大きさには若干の違いあり<sup>3</sup>、構図も多少異なっているが、部分描写を見ると山静はかなり忠実に抱一画を写していることがわかる。松図(図6)では水墨に金泥や緑青を交えたたらし込みによる幹、葉叢の下には細やかな小枝を添え、緑青の葉叢の上には積もった雪や降り注ぐ粉雪などが丁寧に添えられている。異なるのは山静が細かな針葉を描き加えている点である。月図でも水墨と金泥で雲隠れ気味の月が表される。花図(図7)では、胡粉の没骨で薄い花卉を繊細に表し、蕊などには白緑を用い、葉は代赭系の濃淡に金泥で葉脈を入れる。山静が抱一画に肉薄しようとしていることは明らかである。

ところで山静はどこで抱一画に出会ったのだろうか。抱一画は共箱で箱書に「文政三年庚辰五月端午日 君山家蔵」とあり、抱一が六十歳の時に下総国流山の富商・君山君積のために制作したことが

- 1 秋田市立千秋美術館の前身、昭和33年(1958)開館。
- 2 『松雪鑑賞(一)』大正5年(1915)5月、同(二)大正6年、同(三)大正11年、が刊行されたようだが、(一)しか確認されていない。
- 3 三森本は、縦104.0×横33.0cm、抱一本は、縦 91.4×横35.1cm

判明している。その後、池田孤邨(1803-1868)が所蔵した時期があったらしく、『抱一上人真蹟鏡』(1865年刊)には「兩國蔵」として出てくる。孤邨は40代半ばから没するまで両国久松に住んだので、「兩國蔵」とは孤邨が所蔵していたことを表しているのではないかと推察される。次に出てくるのは『美術画報』14編巻8(明治37年=1904年1月26日)で、そこでは「栗山善四郎君蔵」とある。八百善主人の栗山善四郎である。明治19年(1886)に上京した山静が抱一画を直接見る機会があったとしたら、時期的に八百善だった可能性が高い<sup>4</sup>。

山静は何故抱一画に拠った作品を描くことになったのだろうか。未だ真の理由は不明ではあるが、一因として考えられるのは師の平福穂庵からの示唆である。穂庵の《梧桐樞鳥》(個人蔵、図8)<sup>5</sup>は琳派特有の「たらし込み」を大胆に駆使した作で、『平福穂庵画集』では明治22年(1889)頃の作と推定している<sup>6</sup>。その構図や技法そして色感は鈴木其一の《朴に尾長鳥図》(京都・細見美術館蔵、図9)に、素材や霧雨を添えるところは《楓・青桐図》(心遠館コレクション、図10)の右幅から示唆を受けたことが窺われる。琳派風の描写の確かさから見て、穂庵は少なくとも何らかの琳派作品を実見していたはずである。同じく其一の《朴に尾長鳥図》を意識したと言われる菱田春草の《かけす》(個人蔵)が制作されるのは、穂庵の制作からおおよそ20年後の明治43年(1910)であった。

穂庵の活躍した明治前期には、江戸時代以来の抱一や其一の流れを直接汲んだ作家も活躍していた。明治15年(1882)の第一回内国絵画共進会には、「和画諸派」として中野其明(1834-1892)、田中抱二(1815-1885)、山本光一(1843?-1905)、酒井道一(1845-1913、雨華庵四世)<sup>7</sup>らが名を連ね、酒井道一は褒状を授与されている。こうしたいわば江戸時代からの地続きの琳派の流れに対して、春草らが琳派風を取り入れて新風を吹き込むことになるのは、明治末頃と言われている。いっぽう穂庵周辺では、第二回内国絵画共進会が開催された明治17年(1884)に東洋絵画会が農商務省官僚の肝煎りで発足し、穂庵が後に関わることになる『東洋絵画叢誌』が創刊(明治17年9月)され、東洋絵画共進会(第一回展は明治19年)が開催される。こうした中央絵画界への進出が、穂庵と琳派作品との幸運な出会いを促し、その画法に心を動かした穂庵が《梧桐樞鳥》の制作に琳派風を試みたのだろうか。太田和夫氏は琳派風の「たらし込み」技法がごく限られた時期にしか現れてこないことを指摘されている<sup>8</sup>。時期尚早とも言える琳派との出会いは、継続的に次の制作へと続かなかつたらしいが、弟子の山静に琳派作品を学ぶべきことを勧めるきっかけにはなったのかもしれない。山静が繊細な墨使いや彩色を注意深く学び取っているのは、こうした師の教えに拠ったものであろう。

4 師の平福穂庵は明治19年の春、門人の竹村篁邨(1867-1920)を伴って上京し東京向島吾妻橋の佐竹邸に寄寓するが、篁邨が脚気のために帰郷したため、山静が代わりに呼ばれることとなったのが、山静の東京行ききっかけであった。

5 本作には山静画の前年の昭和10年(1935)4月21日の「第三回秋田信託名畫展覧會」への出品を示す一札が付属している。

6 『平福穂庵画集』大日本絵画、1983年。

7 明治10年(1877)の第1回内国勲業博覽會に出品するとともに、第3回同会では褒状を受賞した。同26年(1893)のシカゴ万国博覽會にも出品。

8 太田和夫「平福穂庵の作品検証—変革の時代に生きた地方画家—(補遺)」『秋田県立博物館研究報告』第35号、2010年。

## 《円窓美人図》(個人蔵、図11)

本図は、『日本洋画曙光』<sup>9</sup>に掲載された田代忠国(1757-1830)の《円窓美人図》(図12)を元に制作されたと思われる作品である。両図の本紙のサイズは異なっているが<sup>10</sup>、田代画に対して本図では上部を多少足し、横の間隔をあけ気味であることなどを考慮すると図柄自体に大幅な大きさの差はないものと思われる。田代画と関係深い作品として注目されてきた藤氏憲承《円窓美人図》(秋田市立千秋美術館所蔵、図13)よりも、牡丹と枇杷を盛った器の有無だけでなく、服装の細部やその模様に至るまで、本図がいっそう田代画に近いことは明らかである。特に色彩や細部の描写が確認できる点で、本図は田代研究にとって貴重な資料と言える。ただ顔の表情はより温和となり、秋田蘭画の時代とはやや時代が隔たっている印象は否めない(図14)。

『日本洋画曙光』に掲載された時の田代画の所蔵者は、田口謙蔵(1883-1956)であった。同氏は仙北新報社の社長にして、大曲町長、秋田県会議員を務めるかたわら俳人としても活躍した秋田の名士であり文化人であった。本図も秋田県より見出されたらしいことを現所蔵者より伺ったので、藤氏憲承画も含めて二点もの複製(あるいは模写)が試みられるほどに田代画の存在は知られていたであろう。田代画として以前より知られているもう一つの中国美人図も円窓美人図である。清時代に流行した円窓美人の構図は19世紀後半の日本では様々な流派によって試みられた。秋田蘭画の場合、円山四条派や浮世絵などに比べて時期的に比較的早く、その輸入経路も興味深い点である<sup>11</sup>。印章(「口篋」)(図15)の判読も含めて、将来の研究に委ねるべき問題は多い。

以下の挿図は下記より複写、他は筆者自写。

挿図2、6、7 酒井抱一《雪月花》『琳派』(紫紅社、1989年)第一巻

挿図9 鈴木其一《朴に尾長鳥図》『琳派』(紫紅社、1989年)第二巻

挿図10 鈴木其一《楓・青桐図》右幅(心遠館コレクション)『琳派』(紫紅社、1989年)第一巻

挿図12 田代忠国《円窓美人図》『日本洋画曙光』(岩波書店、1930年)

9 平福百穂著、岩波書店、1930年。

10 田代画は、『日本洋画曙光』に「巾一尺二寸、竪二尺八寸六分」と記述されているので、1尺30.3cmとすると、巾36.3cm竪86.7cmとなる。本作は、110.0×40.5cm

11 拙論「日本近世美術における文人趣味の研究—鳥橋齋栄里筆「梅窓美人図」を中心に—」『実践女子大学美学美術史学』13号、1998年。



图1 三森山静筆《雪月花》(個人藏)

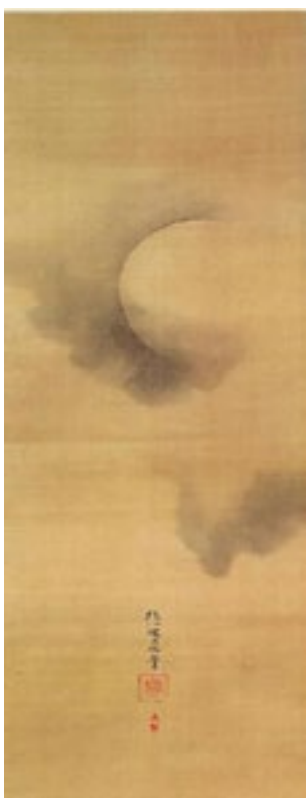


图2 酒井抱一《雪月花》(静岡・MOA美術館藏)

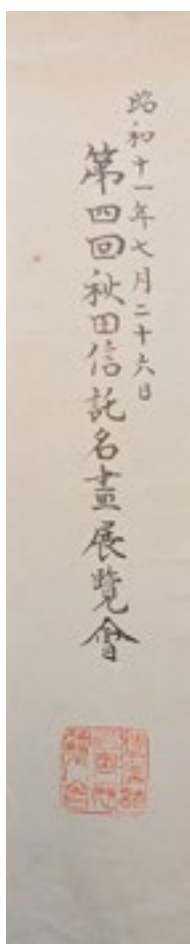


図3 付属文書1

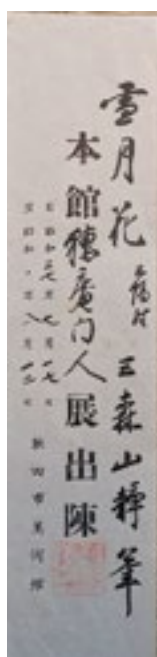


図4 付属文書2

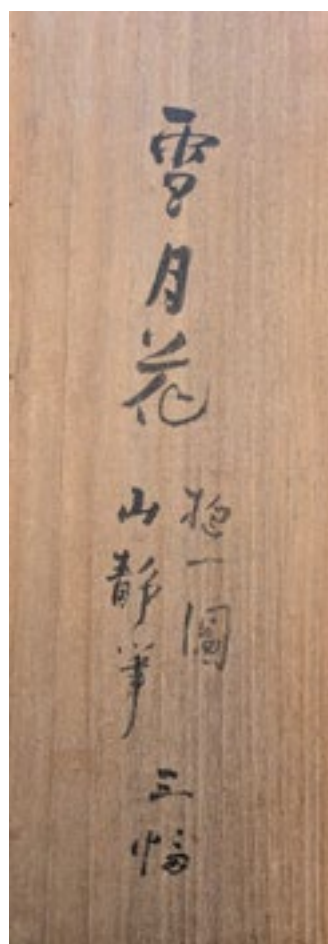


図5 箱表書き



図6 松図の比較(左:山静、右:抱一)



図7 花図の比較(左:山静、右:抱一)



図8 平福穂庵《梧桐樞鳥》(個人蔵)



図9 鈴木其一《朴に尾長鳥図》  
(京都・細見美術館蔵)



図10 鈴木其一《楓・青桐図》右幅  
(心遠館コレクション)



图11 《円窓美人図》(個人蔵)



图12 田代忠国《円窓美人図》  
『日本洋画曙光』所載



图13 藤氏憲承《円窓美人図》(秋田市立千秋美術館所蔵)

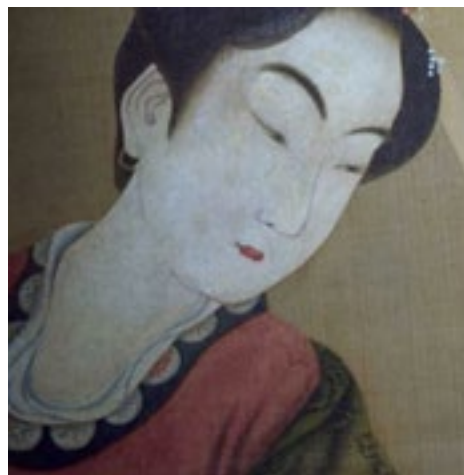
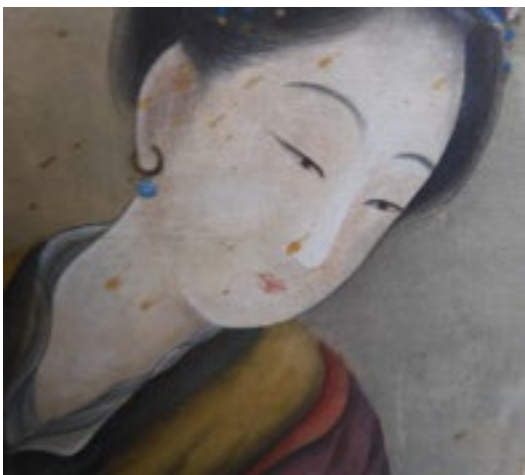


图14 顔の部分(左:本図、右:藤氏憲承画)



图15 印章

# 平福穂庵筆「乞食図」をめぐる人物と制作背景

主査(兼)学芸主事 鈴木 京

## はじめに

平福穂庵(1844-1890)は、秋田藩角館出身の日本画家である。京都・北海道・東京と遊歴を重ねる中、円山四条派を中心に諸派を独学し、一時は近代黎明期の東京画壇でも活躍した。美術史上では近代日本画の大家・平福百穂の父として長らく認識されていたが、近年は「地方から近代を用意した画家」として穂庵自身が注目を集めている<sup>1</sup>。

その画業中期の代表作が、「乞食図」である。「乞食図」は、弊衣をまとった男性が立ったまま食事する様子を描いた単身の人物画で、複数の類似作品が現存している。画中の男性は、士族から物乞いへと零落した知人・小田野弥六を写生して描いたものとされる。更に穂庵は、3つの展覧会へ「乞食図」を出品、受賞したとも伝えられる。伝統的画題が好まれた明治初期、「乞食」を描き展覧会に出品した背景は不明のまま、しかし表現力と迫真性を魅力に新時代の展覧会で評価を得た「乞食図」は、穂庵の「近代性」を象徴する代表作とみなされてきた<sup>2</sup>。

本稿ではあらためて、秋田県立近代美術館が所蔵する平福穂庵《乞食図》(図1)、《乞食之図》(図2)(ともにp19)を取り上げ、「乞食図」に関する情報を整理し、背景について考察する。まず、各作品の制作年代を落款や描写をもとに検討し、初発の作品を推定する。次に、史料に基づき出品歴を再考し、そこから見えてきた交友関係・社会状況から制作背景について考察することで、作家や時代を理解するための一助としたい。

なお本稿では、画題として扱う場合や作品が特定出来ない場合は「乞食図」、特定の作品を示す場合は作品名で表記した。

## 1 作品概要と様式分析—制作年代の再検討

《乞食図》(図1、便宜上、本項目では乞食Aと表記)、《乞食之図》(図2、乞食Bと表記)には年紀がなく、所蔵目録上では、ともに初回制作とみられる明治13年を制作年としている。筆者は以前担当した特別展<sup>3</sup>で推定制作年代を提起したが、改めて根拠も含めて示したい。

### 1-1 作品概要

乞食Aは、縦166.2cm、横84.1cmで、無落款である。綿を支持体とする点が珍しい。画面の中央に男性が大きく描かれている。右足先で立ち上がり、左足付け根を支点にして上半身を大きく前傾させ、欠けた腕にかじりつくように飯をかき込む姿である。このポーズによって、画面上にくの字の構図が形作られている。穂庵はS字や曲線を描くような意趣に富む構図を用いることが少なくないが、本作にもその特徴が表れている。左肩に背負う破れた笠、右腰のあたりの頭陀袋と雨よけの蓑、体を支える杖は、乞食の典型的な持物である。左腰付近に描かれる着物の模様は家紋と解されており、この人物が紋付きの着物を着るような身分であったことを示すとされる。頭髮は鬘を落として乱れた様子で、継ぎ接ぎの衣服は破れて肌が露出している。血色の悪い肉体は、痩せて骨が浮き出て痛々しい。肉体を描くにあたっては、墨に代赭のような茶色を混ぜ、輪郭線を図に馴染ませ、感覚的ながら陰影も表現し、写実的に描こうと意識している。手で食事をとる野卑な姿は、けわしい表情と藪睨みの瞳が相まって、この人物の異様さをいっそう引きたてている。背後には桜樹の幹、足元には小さなレンゲの花と桜の落花を描き添える。温かな春は、対比的に零落者の不憫な様を強調する。作品の表装部分、上巻絹には「褒状」の受賞票が貼付けられている。これは明治15年(1882)の第一回内国絵画共進会のものと考えられる<sup>4</sup>。外箱には百穂による箱書「穂庵翁畫乞食圖」があり、出品票が6枚同梱されている。最も古い出品票は「第3回秋田信託名画展覧会」(昭和10年4月)のもので、この作品が戦前から知られていたことがわかる。

乞食Bは、縦151.8cm、横72.5cmで、乞食Aより小さく、絹を支持体とし、「穂庵寫意」の墨書と白文方印「穂菴」、朱文方印「平順」を有する。乞食Aに比べ、男性の体はやや直立気味になり、笠、蓑、頭陀袋の位置、杖の長さも変更

されている。後方には銭貨が描き込まれている。これは編笠銭、つまり他者から恵まれた金銭を表わすものと思われるが、男性は銭貨に目もくれずに腕から食事をかき込んでいる。その視線は明らかに鑑賞者側へと向かうように描かれている。技法の面では、円山四条派の付立てを基本としながら、より水分を多く含む筆で描写し、着物の襟や裾、蓑などには筆形を崩すような描写がみられる。肉体部分には墨や代赭を混ぜた絵具で輪郭を描き、陰影を加えている。左足先には木炭のような描画材による下描き線が幾筋も残り、足先の角度を決めるのに腐心したことがわかる。西洋画の下描きのように、支持体上で直接修正しているのが興味深い。外箱には旧箱の題簽部分が同梱され、奈良磐松による箱書「乞食之圖 平福穂庵筆」が記されている。出品票3枚も附属しており、最も古い出品票は「平福穂庵名画展覧会」(昭和25年6月、秋田魁新報社講堂)のものである。

参考として3点目の同工異曲(図3、乞食Cと呼称、135.9×56.2cm、個人蔵)を挙げる。背景に寂しげな秋草の野を描く点が異なるが、モチーフや構図は乞食Bと類似する。こうした類似作の存在から、「乞食」は画題のひとつとしてある時期から穂庵のなかで認識され、表現型を固めていたものと想像される。なお、乞食Cは他の2作よりも小さいことから、個人的な需要に応えた作と思われる。

「乞食図」を比較すると、穂庵は添景によって哀れさや不遇さを対比的に強調しながら、男性の顔つきを陰しく力に満ちたものとして描いていることが理解できる。このギャップに表現の意図が強く表われているものと思われる。また、描写や技巧の面では、輪郭線の色味調整や、陰影表現、骨格の適正化によって、写実的で存在感のある人体を描こうとする意図が感じ取れる。明治7年作の《蝦蟇仙人》(図4、秋田県立近代美術館蔵)が円山四条派の様式を抜けきれていないのに比べ、「乞食図」の写実感覚の進展は著しい。これには、明治5年以降の北海道でのアイヌ写生体験が影響しているという示唆がある<sup>5</sup>。

## 1-2 制作年代

「乞食図」では制作年代が記されないため、落款や表現から制作年代を考えてみたい。注目すべき指標として①落款、②眼の表現、③筆法の3つについて比較する。

まずは①落款である。穂庵の落款は、時代毎に形が異なるため年代の指標として参照できる。落款を有する乞食B(図5)のみ検証すると、墨書部分「穂庵寫意」は明治20年作の《竹林七賢》(仙北市立角館町平福記念美術館蔵)(図6)や、明治20年頃制作とされる《墨堤舟游》(秋田県立近代美術館蔵)(図7)に形が近い。また、白文方印「穂庵」・朱文方印「平順」の取り合わせは《墨堤舟游》と同じである。うち朱文方印「平順」は、現状、明治20年以降と推定される作品にみられる印章である。こうした比較から、Bは明治20年以降の作とするのが妥当と考える。

次に②目の表現である。乞食A・Bの眼の描写を比較すると、黒目の輪郭や、眼の周りの粘膜の表現に違いが見られる。乞食Aが黒目に輪郭線をひかずに描くのに対し(図8)、乞食Bでは輪郭を描き、眼の周りにうっすらと赤系の色を入れて粘膜を表現している(図9)。人物を主体に大きく描いた他の作品を比較すると、明治10年代の作品には黒目に輪郭があまり描かれなないのに対し、明治20年代の作品では明瞭に輪郭を描き、眼球の際に淡紅色で粘膜も表現する傾向が確認できる。例として、前に触れた《蝦蟇仙人》(図10、当館蔵)では黒目の際に輪郭線をとらず、茶色がかった虹彩を描く。明治17年頃の作とみられる《アイヌ帰漁図》(図11、仙北市立角館町平福記念美術館蔵)でも同様に輪郭線はない。一方、上京後の明治20年制作とみられる《黄初平》(図12、秋田市立千秋美術館蔵)や《墨堤舟游》(図13)、《祐天上人霊夢》(図14、明治22年、当館蔵)では輪郭線がみえる。こうした表現の違いから、Aは明治10年代初期～中期、Bは明治20年以降と推定できる。

次に③筆法を比較する。特に蓑の表現が大きく異なる。乞食Aでは円山四条派の伝統的な「付立て」を主体とする筆形を強く保持した表現である(図15)のに対し、乞食Bでは水分を多く含む「にじみ」の感覚が強く表れている(図16)。穂庵の作風を通観すると、筆形や線を明瞭に見せる付立て表現から、筆に水分を多く含ませ「にじみ」や「ぼかし」を多用した表現へと変わってゆくように見える。こうした水分量による感覚の変化は《乳虎》(明治23年、当館蔵)の虎の毛並み(図17)や、《羅漢尊者之像》(明治22年頃、当館蔵)の背景表現(図18)など、上京後の作品に顕著である。

以上から、乞食Aと乞食Bは制作年代が異なると理解でき、さらに踏み込むと乞食Aは明治10年代半ば、乞食Bは20年代と考えられる。なお、乞食Cは落款・様式から、乞食Aより下の時期、明治10年代後半と考えられる。「乞食」は本来忌避されるような画題であるにもかかわらず、明治20年代まで描く機会や需要があったのではないだろうか。

## 2 制作過程—「写実」の使い方

現存する作品の内、《乞食図》(図1)は最初期に描かれた作品と推定される。本章ではこの《乞食図》について、関連資料である《素描帖》(仙北市立角館町平福記念美術館蔵)をもとに、具体的な制作過程について検討する。

### 2-1 対観写生から絵画化へのプロセス

《素描帖》は6冊あり、山水・動植物・人物など対象ごとに冊が分けられ、当初から冊子体であったものと後年に編集されたものとが混在する。中には実物のスケッチ、実見した本画・粉本の縮写などが所収され、大乘寺(兵庫県)の円山応挙筆「郭子儀図襖」に描かれる唐子図や、アイヌの姿、明治19年以降に東京で見たらしき虎や象の対観写生も含まれる。穂庵の絵画学習の様子がうかがえる貴重な資料である。

うち人物を描いた冊に、《乞食図》(図1)の原型らしき図が残る(図19)。直立して食事を摂る男性を流麗な墨線にとらえたもので、ボロボロの服を着ているが、体は《乞食図》ほどには痩せていない。両脚を肩幅に開き、上半身と下半身にねじれない自然な姿勢で描かれることから、対観写生(またはその浄写)と考えられる。《乞食図》のやや視点の合わない瞳も、この段階で描かれている。笠や蓑は体との関係が不明瞭で、これらは写生後の加筆と思われる。仁王立ちで食事を摂る様子はやや現実的ではないことから、この図はポーズモデルを写生したものではないかと想像される。

さらに男性像の余白部分には、骨の図解も描かれている。頭蓋骨、手、腕、脚など、《乞食図》に描かれている肉身部分に関わる部位の骨であり、肉体を描くにあたり参考にしたものと思われる。骨の名前が添えられることから、解剖図等を写したものかもしれない<sup>6</sup>。穂庵は他の作品にも人体の構造を意識した念入りな下絵を残しており、この《素描帖》も、それらの下絵と同様に、穂庵が解剖学的な理解も交えて「乞食」を描こうとしていた痕跡と考えられる<sup>7</sup>。

《乞食図》の作品化にあたっては、右肩と左脚を前に出し上体を前傾させる不自然なポーズに描き直し、痩せて骨筋の浮き出た肉体を強調する陰影を加えている。前にせり出してくるような前傾姿勢や肉体の陰影は、人物の生々しさや動勢の感覚を引きおこすもので、この絵の印象を強める効果があるといえる。穂庵は「乞食」の絵画化にあたり、写生を基盤としながら、絵画的な妙味やインパクトが出るように工夫していたようである。

### 2-2 小田野弥六の人物像

やや話が本筋からずれるが、零落した弥六を写生したとする逸話についても検証する。

弥六は天保4(1833)年3月1日、角館生まれで、穂庵の11歳年上にあたる。幼名は直吉、勇吉、弥平。諱は光謙。明治44(1911)年11月10日、秋田市保戸野新町に79歳で没した<sup>8</sup>。戊辰戦争への従軍、参謀局詰、組頭を経て、維新後も角館士族隊に所属するなど武士らしい履歴が残る。俳諧を好んだ角館の人らしく、「櫟窓」と号した俳人でもあり、移住した大曲では「まるこ吟社」を結成して活動。秋田の鳴雪と評されたという。その出自は常陸時代からの佐竹家の家臣・小田野縫殿家とされるが、現在残る関係系図(「諸氏系図」等)に同家の記録はなく<sup>9</sup>、常陸在住時に分家した家系であったのかもしれない。

戊辰後の経済状況としては、明治6年段階で、同族小田野家と概ね同等の改正高25石とされている<sup>10</sup>。この金額はそれほど裕福なものとはいえない。明治11年に「秩禄公債書」(金禄公債証書)を受領、明治13年頃には士族の主要な転向先であった機業を始め、八丈絹を県南部に売り出した記録が残る<sup>11</sup>。同14年頃には少し借財したようだが、これは洋品の流入による地産機業の業績悪化が影響したのかもしれない<sup>12</sup>。一方、18年3月には佐竹宗家に請われ角館の代表者として上京、他の惣代6人とともに財政の整理再建に協力したとされる。このような明治10年代の

実態からは、弥六自身が「乞食図」に描かれるような浮浪者だったとはいえ、落ちぶれた弥六を写生したとする従来の説は否定できる。ポーズモデルならあり得ただろうが、試みに《素描帖》と弥六の顔写真(図20)と見比べてみると、少し張ったように見える左額や、大きそうな眼窩に小さな黒目など類似は感じられるものの、判断材料に欠ける。

弥六モデル説の初出を確認すると、もとは戦後に角館出身の美術史家から紹介された説で<sup>13</sup>、古い文献では特定の個人を示す情報はない。角館内では弥六と穂庵との親交は知られており、穂庵の子息・百穂は二人を「親友」とよび、穂庵が描いた墨絵の陣羽織を弥六が着て戊辰戦争に出陣した逸話や、壮年となっても変わらず談笑していた様子(図21)を回想している<sup>14</sup>。弥六モデル説は、何らかの周知の事実と端を発するものだったのかもしれない。

以上から、《乞食図》(図1)を描くにあたっては、前段階としてポーズモデルを用いた素描・デッサンを行って肉体の迫真性を補い、絵画的な操作を加えて完成させたと想定される。《乞食図》は見たままの状況を描いた写生画というよりは、写生を基礎に実写的な感覚や迫力を加えつつ、創意や意図を交えて完成させた構想画ととらえることができる。

《素描帖》には、《乞食図》(図1)の男性がもつ目つきや表情と同様の感覚がみられる。この怒りとも、威圧ともとれる異様な相貌は、「乞食」のイメージを逸脱する重要な表現要素である。年代推定のうへで改めて眺めてみると、《乞食図》では人体の動勢と相貌の異様さがつくるインパクト自体が強い絵画的妙味となり、見る側を引きこむような性質を持つのに対し、後作の《乞食之図》(図2)では構図がきれいに整えられ、さらに視線を鑑賞者側に向ける方向付けがより明瞭である。時間を経て「乞食図」の性質は、鑑賞者に働きかけたり促したりするような方向へと変化したと思われる。

### 3 伝記中の出品歴について

次に出品歴について検証する。穂庵は「乞食図」を3つの展覧会に出品したとされる。この出品歴は「乞食」という画題の初出時期を考える上で欠かせない情報といえるが、従来は伝記の引用に拠る部分が大きく、事実の検証と出品作の同定は行われていない。ここでは当時の公文書をもとに事実を確認したい。

#### 3-1 出品歴の再検討

##### ① 明治13年 第三期秋田博覧会 一等賞受賞について

穂庵は、「乞食図」を明治13年の「第三期秋田博覧会」へ出品し、一等賞を受賞したと伝えられる。これは、穂庵逝去(明治23)の翌年に執筆された伝記「画人穂庵翁小伝」(1891年、写本)<sup>15</sup>に記された情報である。筆者は政治家・伊藤耕餘<sup>16</sup>で、明治20年代に東京の穂庵を訪ねるなど晩年にも交流があった。以下に関連部を引用する。

「明治十三年、秋田県勸業博覧會を設く。翁乞食の図を畫き、是を出す。其状眞に逼る。觀る者嘆賞せざるなし。將に會を閉んとするに及て、官贈るに一等賞を以てす。或る人翁に謂て曰、凡そ畫幅は是を床上に掲げ、貴顯にあらざれば則紳縉の矚目する處にかかる。故に古人多くは哲人傑士を畫くにあらずんば、即ち江山鳥獸の寫生に過ぎざる者の如し。而して翁今殊に乞食の圖を作り、是を博覧會に掲ぐ。恐くは奇癖の評を免れざらん。翁笑て曰、王侯貴人世に貧困の憐むべき者あるを知るならん。然れとも其實況を目撃して、眞に憐むべきを知る者にあらざるべし。余が此図を造る所以、聊(注:いささか)が彼の貴紳をして、惻隱の情を惹起せしむるの意に過ぎざるなりと。翁の畫を造る、徒に丹青の末技を弄する者にあらざるなり。」

(伊藤耕餘「画人穂庵翁小伝」1891年、写本 ※下線は筆者による)

秋田博覧会は、内国勸業博覧会の盛挙にならない、絵画に限らず広く秋田県内の製品や産物を募集し、産業奨励を目的に県が主導したものである。第三期博覧会は秋田博物館(秋田市八橋村)を会場に開催され、総出品者数は1,433名、総列品数11,830点であった<sup>17</sup>。うち穂庵が受賞したとされる一等賞牌受賞者は26名で、評価の高さが

うかがえる。

当時の公文書<sup>18</sup>には、確かにこの展覧会で穂庵が一等賞を受賞した記録があるが、作品名や図様に繋がる手がかりがなく、現段階では出品作が「乞食図」だったのかは不明である。なお、「画人穂庵翁小伝」では第一回内国絵画共進会の受賞については記載されていない。

また、「画人穂庵翁小伝」では、「乞食の図」を「造る所以」(制作目的)は「貴紳」(身分の高い人々)へ「惻隠」(思いやり)の情を惹起させるためだとする穂庵の言を伝えている。聞き語りとはいえ、穂庵の制作目的を記した文章はこの文献が唯一であり、重視できる。

## ② 明治14年 龍池会(第2回 観古美術会か)への出品について

村松梢風「平福穂庵—本朝畫人傳の四—」(1924年)<sup>19</sup>では、「乞食図」が明治14年の「龍池会」に出品されたと伝える。

「穂庵が、初めて中央の畫壇に認められるやうになったのは、明治十四年に、龍池會へ乞食の圖を出品した時からであった。龍池會は、それより二年ばかり前に初めて生れた美術家の團體で、現今の日本美術協會の前身であるが、創立當時、美術界各方面の大家を網羅して、不忍辨天の社内で作品の展観を催すのが例だった。それが我邦に於ける美術展覽會の始祖であった。穂庵の乞食の圖は、意匠卓絶して、筆力超凡なので人の眼を惹いた。會の元老柴田是眞は、穂庵の畫を見て「田舎に是れ程の繪かきが居やうとは思はなかつた」と言つて激賞した。」

(村松梢風「平福穂庵—本朝畫人傳の四—」『中央公論』通号440号、中央公論社、1924年10月 p.68 ※下線は筆者による)

明治14年の「龍池会」への「乞食図」出品が出世の契機で、柴田是眞の激賞を受けたとする逸話は他の文献<sup>20</sup>にも見られるが、内容が酷似することから、「本朝畫人傳」が引用元と思われる。なお、村松も第1回内国絵画共進会については書いていない。

「龍池会」は明治12年3月、富国政策の観点から古美術品の保護と伝統美術の研究・継承を推進する官僚らが主導し、美術愛好家や日本画家たちと組成した団体である。明治14年に龍池会が行った展覧会としては第2回観古美術会(5月1日～6月30日)があるが、この展示では新製品(新しく制作された作品)は対象外であったため、「乞食図」の出品は疑問視されている<sup>21</sup>。「龍池会」と穂庵との関連が現れるのは明治17年の巴里日本美術縦覧会からであり<sup>22</sup>、明治14年時点での関連を裏付ける史料は見つけられていない。

## ③ 明治15年 第一回内国絵画共進会 褒状受賞について

この出品と受賞に関しては確実であるため(後述)、ここでは関連する記述にふれておきたい。実は、第1回内国絵画共進会への「乞食図出品」と「褒状受賞」という二つの事項を伝える文献は、後述の公文書をのぞけば、寺崎廣業<sup>23</sup>による次の回想録が初である。廣業は、「乞食図」(図1)の図版を示し、褒状受賞作と紹介している。

「此圖は穂庵先生か(ママ)秋田の郷里に居られたとき、明治十五年の第一回繪畫共進會へ出品されたものです。御覽の通り品位の点は兎も角其筆墨の妙、情貌の眞に迫る所など實に非凡の技術があります。然しこの意匠は頗る奇体に感じますが、是は當時の一種の諷刺畫と申して宜しい。所謂元身分のよかつた方の其零落した様をはげしく(當時士族方の失敗零落夥しき故)畫いたもので、着物の内に紋様のあるなどは大に意を用いた點で確かに昔を偲ぼせる事と思へます。又榮枯盛衰の對照に落花を添へたなども頗る珍とすべきであります。何しろ其頃は今と違つて田舎は彼此不便であつた為めに、繪絹へかく譯に參らず、不得已キャラコ(圖の大きき大畫箋紙と同形)へ畫いて出品されました。けれども穂庵の名は東都に一向知れませんが、誰あつて顧みる方もなかつたですが、審査の結果は唯の褒状に有附いた位、獨り柴田是眞翁(審査員の一人たり)のみか非常に感服され、田舎にも斯様の達筆の畫家があるかな——と頻りに嘆賞して居つたそうです。(後略)」

(「雜録 平福穂庵乞食の圖に就て」『研精美術』28号、1907年 ※下線は筆者による)

第1回内国絵画共進会は、農商務省の主催による日本画復興を目的とした官設公募展で、全国から2,048名4,068点の応募があり、褒状受賞者は75名であった。この共進会の目録<sup>24</sup>には穂庵出品の事実が欠落しており、次いで出版された『明治15年内国絵画共進会出品縮図』(国文社、明治16年9月)には褒状受賞の事実は載るが作品名が無い。つまり公刊された書籍類からは、乞食図出品と受賞の事実をはっきりと読み取れないのである。耕餘と稍風が出世の機会といえるこの受賞歴に触れなかったのは、こうした情報の欠落によるものだったのかもしれない。

なお、出品作の図様は、当時の『東京日日新聞』記事から確認できる。

「秋田県の平福穂庵の乞食(こつじぎ)ハ、謂ゆる日本の鐵拐とも云ふべき圖にして面部と云椀より指にて物を喰ふ為体(ていたらく)眼中の工合片足鶴膝風に悩めるの容體實に畫得たりと云ふべし。惜しむらくハ製図賤劣なる乞食なるを以て余所に見過す者多きよしなれども若し此筆にして有識のものを畫かば誰か精巧を賞せざる者あらんや。然れども子ハ人物に得意にして草木に不得意なるや櫻の木と春草ハ人物に比してハ大に劣れり。寧ろこのあしらいハ無き方が然るべきなり。疎畫の瀧も今ひと際と存するなり。殊に差出たる岩がどうやら物を押附たる如くにて洗湯の石榴口におさんの臀(ひしき)の出たるが如し。」

(「絵画共進会の記」『東京日日新聞』第3269号1882年11月2日付)

この作品評から、《乞食図》(図1)の出品が裏付けられる。「乞食」という題材に対する一般鑑賞者の当惑の様子からも、この作品が鑑賞者に与えた衝撃がうかがわれよう。

「乞食図」の出品履歴を検証した結果、現状では明治15年の第一回内国絵画共進会のみが出品先として確定であり、その出品作は《乞食図》(図1)だったと思われる。明治13年の第三回秋田博覧会は出品作を確定できなかった。画題の初出時期を示す情報であるため、引き続き史料を探索したい。

伝記の中で注視されるのは、穂庵が貴紳たちへ「惻隱」(思いやり)の情を惹起させるために制作したとする耕餘の記述と、零落した武士を描いた一種の「諷刺畫」であるとする廣業の記述である。耕餘の伝記が穂庵の言をそのまま伝えているとすると、「乞食図」は諷刺、つまり現状描写による批判を含むだけでなく、貧しい人々へ思いを馳せるべき貴紳たち(富裕層や政策主体)への反省を促そうとする「観戒画」の性質を持っていたとも考えられる。

### 3-2 第一回内国絵画共進会への出品経緯

穂庵はなぜ《乞食図》(図1)を出品したのだろうか。第1回内国絵画共進会に対する秋田県側の対応をまとめた『勸業課工商掛事務簿 共進會之部 全』(秋田県公文書館蔵、930103-07810)を調査すると、この出品は当時の県会議員・佐藤順信が主導したものであったことがわかる。この経緯をみていきたい。

まず明治15年7月24日、内国絵画共進会の開催が県内の各役所宛てに告知された。応募締切は8月15日で、9月8日には県勸業課が共進会事務局へ52名の出品者を報告した。穂庵の本籍地である仙北郡からは4名(渡辺大寛、澁谷市松、西宮崑三郎、辻鶴治)の名前が挙げられている。

しかし9月24日、県勸業課から、在京の役人宛てに次のような通信が送られた(図22)。

「一 平福順藏事穂庵、不在にて出品二到致候処、佐藤順信より秋田地方之名筆不差出ハ遺憾之由にて、昨七月以後二揮毫之分、乞丐之図・大瀑布之山水共二枚差出候ニ付、上局伺之上如如水之画ト合セテ四葉差出候。穂庵ハ曩二目録及履歴差出無之候ニ付、則別紙二葉差進候。宜敷御取扱有之度候。」

穂庵が当時秋田に不在であり、佐藤順信なる人物が秋田地方の名筆を出さないのは遺憾であるとして、穂庵の「乞丐之図」と「大瀑布之山水」を出すよう推薦したという。「乞丐(こっかい)」とは乞食の意である。順信はこの2作品を「昨七月」つまり明治15年7月の制作だと申告している<sup>25</sup>。

県はこの推薦を受け、他の追加出品作とあわせて4点を申告することとした。申告された住所は秋田県仙北郡角館町、分類は第五区の円山派である。

続いて、東京で作品を受け取った役人から、県勧業課に作品陳列の知らせ(10月10日付)が届いた(図23)。

「平福順蔵出品ハ定而多々御周旋被下候事と御察候。事務処ニ而少々議論モアリタレトモ、兎角管内第一画工ト申触シ、遂ニ陳列致候。御安神相成度候」

提出が遅れたことに加え、出てきた作品が「乞食」である。「議論」が起こったものの、県内第一の画工だからと取りなして、無事展示が叶ったようである。

11月19日、東京の依託引請人の福島安平なる人物から、勧業課宛てに「非人之図」が褒賞を得た知らせが届いた。翌16年2月には、穂庵に宛てて県令・石田英吉の名で褒状授与の通知文が作成された(図24)。作品名は「乞丐之図」と記され、褒状受賞へのお祝いと激励が綴られている。

共進会から戻ってきた《乞食図》(「乞丐之図」)は、同文書内におさめられた返却目録によれば、「平福順蔵代理」として順信のもとへ返却されている。

以上のように、公文書からは、不在の穂庵に代わって順信が第一回内国絵画共進会への出品を推薦した経緯が読み取れる。《乞食図》は前述のように穂庵が構想を練って描いた作と考えられ、締め切り直前に即席で制作した作とは思いたい。申告のとおり、不在の穂庵に代わり、すでに制作済みだった《乞食図》を順信が出品したと考えてよいだろう。作品自体は推薦の際に出品しやすかったもの、つまりこの時順信の手元にあった作ではないだろうか。

## 4 乞食図の制作背景

穂庵を中央画壇に送り出すきっかけを作った佐藤順信。次に、その人物像や穂庵との交流から、《乞食図》(図1)の制作背景について検討する。

### 4-1 佐藤順信

順信は弘化4年(1847)12月に出生、穂庵より3歳年少で、名前の読みは「のりのぶ」である<sup>26</sup>。明治30年8月能代港町で没した。角館の出身であり、戸沢氏の遺臣・佐藤大隅の家系である七之丞家から分かれた佐藤理右衛門家を出自とする<sup>27</sup>。理右衛門家はもと角館小人町の一角にあったが、万延元年(1860)には表町下丁の一等地に移動・宅地を拡大しており、1805～1860年の間に勢力を拡大する何らかの出来事があったとみられる。順信は、この理右衛門家7代信之(良吉、新左衛門、1819-?)の二男である。

理右衛門家は父・信之の代、慶応2年(1866)に久保田へ移住<sup>28</sup>。久保田の佐藤邸は保戸野中丁にあり、庭園付の立派な邸宅であったという<sup>29</sup>。佐藤家では、戊辰戦争で負傷した縁者・宇留野勝伴(父・信之の兄、角館出身)の療養、角館出身の明德館学生を宿泊させるなど、角館出身者を篤くもてなす家風があった(以上、資料含め中田達男氏のご教示による)。

穂庵が順信の宅に一時身を寄せていたことは、鷹巣町の政治家・河田與惣左衛門が刊行した所蔵品画集『丹楓雅集』(大正7年9月刊)の記述からもうかがえる。巻頭言(「丹楓雅集第六輯 穂庵之巻緒言」)によれば、穂庵は「明治8年以後三星霜 佐藤順信氏ノ宅ニ研鑽錬磨シ妙技愈進ム」、「明治9年 櫻仙人ヲ時ノ共進會ニ出品シ三等褒状を得 大ニ柴田是真翁ニ囑目セラル」とある。「櫻仙人」とは《乞食図》をさすのだろう。河田の記述には誤りもあるが、穂庵が順信の支援を受けていた事実は、他の資料からも裏付けられる。穂庵が明治16年9月の函館滞在中に順信に宛てた手紙はその一つで、穂庵は画作の近況や家計の報告、自身の母親に関する個人的な依頼まで書簡に書いている<sup>30</sup>。明治8～11年前後は穂庵の年譜上の情報が少ない時期で、この時期に順信と交流を深めたと考えたと辻褃は合う。

また、『丹楓雅集』には、穂庵筆《蜀棧道》(秋田市立千秋美術館蔵)について、「佐藤順信氏ノ家ニ寄寓スル時ノ大作ナリ。順信氏戒ムルニ未タ大成セサルヲ以テ落款スル勿レト言フ。先生深ク其言ニ感シ以テ無落款タルナリ」と記述がある。《乞食図》(図1)もまた《蜀棧道》と同様に無落款であることから、順信のもとで描かれ、その所蔵になっていた可能性は高い。

#### 4-2 制作動機の検討—順信・社会の動向から

加藤昭作『評伝 平福百穂』(2002年)によれば、順信は山本郡椿鉾山の経営者だと説明される。真偽は不明ながら、少なからぬ収入があったことは確かで、明治11年・13年には慈善的な寄付を行っている<sup>31</sup>。

順信の社会に対する関心は、経済的成功よりも政治活動に向かったらしく、公選による秋田県会が初成立した翌年の明治13年に南秋田から出馬して県会議員に当選、19年9月の退任まで務めている。同地域の他議員よりも長い約6年の任期中には、議員互選による県会副議長(明治15年10月～16年4月)に選出されており、厚い信任のさまがうかがえる<sup>32</sup>。当時の県会議員の役割は主に県庁の行財政を監査・議論し地元の利害を代弁することで、順信も農学校設立の発議ほか積極的な議事提案を行っている<sup>33</sup>。

折しも同時期(明治10年代前半)の秋田では、俸禄処分や地租改正で窮乏した旧士族や中小農民等の不満が高まる中、全国の民権運動の動向が流入した。民権運動の過激化によって、一部政社による「秋田事件」(明治14年)<sup>34</sup>のような暴走が引き起こされながらも、人々の民権意識や政治参与への熱意は高まり、明治15年に初の政党である「秋田改進黨」が結党されるに至った。同党は「立憲政体」の確立、「王室尊榮」、「内治ノ改良」を趣意に、県会議員の大半と県内の言論人ら54名によって組成された初期政治家の結集体であった<sup>35</sup>。順信は結党の段階から関わり、明治15年6月18日に秋田市寺町妙覚寺で行われた同党の大会議において、麓長治、成田直衛(1848-1920)、荒谷桂吉(1852-1934)、鈴木喜一、畠山雄三(1851-1934)ら他の県会議員とともに、党の中核をなす常議員に選任されている。また結党に名を連ねた人物に、前述の伝記の著者・伊藤耕餘(明治20年より県会議員)や、穂庵を支えた角館の漢学者・河原田次亮(1854-1902)<sup>36</sup>らがいた点も注目できる。

こうした知人の政治活動に対し、穂庵がどれほど接近したのかは不明である。しかし、《乞食図》が描かれた明治15年7月前後という時期は、穂庵の知人たち、とりわけ順信の政治活動における大きな動向が重なった時期でもあった。穂庵の画業において《乞食図》以前に時事的な社会的画題を扱った作品がほぼ無い<sup>37</sup>ことや、順信のもとに《乞食図》が収まっていた可能性を考慮すると、「乞食」という主題の発案や制作は、順信に触発された社会的事象への関心によるものと想定できるのではないだろうか。さらにいえば、絵画という専門性によって、社会を「改良」していこうとする順信たちの政治活動を鼓舞しようとしたとも、その直接的なタイミングが秋田改進黨の結党だったとも想像できる。改進黨の構成員は、「秋田事件」を起こした秋田立志会のメインボリューム(農商士民の中下層)とは異なり、中央に学んだ知識人層や、啓蒙書を購読できる富裕層が多数であった。彼らこそ、地域の「貴紳」そのものである。穂庵の迫真的な乞食の図は、実際に政治に立つ彼らへの「観戒」的な意識を促す対象になり得たことだろう。初発の制作以降、複数の「乞食図」が残されたのは、こうした近代黎明期の政治家達からの要望に応じたためと考えられる。

#### 4-3 乞食を描く絵と「乞食図」

最後に、やや表層的ではあるが、「乞食」を描く先行作例をみてみたい。

日本絵画の中で描かれてきた、乞食を描いた作品には、二つの典型がある。一つは乞食装の異能の人物を描く例である。たとえば、乞食の肉体で生きることになった鉄拐仙人の図や、市中の乞食に混じって修行を続けた臨濟宗の名僧・大燈を描く白隠筆《乞食大燈像》(永青文庫蔵)などである。これらの作品は、乞食装の人物を画面に大きく捉える構図や、険しい眼と相貌に特徴がある。ただし、画題自体としては、異能・高貴な人物が乞食の様態をとるところに妙味があるもので、被差別層としての「乞食」を描くわけではない。

もう一つは現実の「乞食」を描く作例である。例として《洛中洛外図屏風》(国立歴史民俗博物館蔵、図25)や《一遍上人絵伝》(東京国立博物館蔵、ほか)(図26)が挙げられる。どちらも作品の性質上、市街を广角でとらえた中に、社会に実在した乞食を添景として描く。市井の暮らしを謳歌する一般町民や貴族とは対照的に、乞食たちは力なく座り込み食を乞う虚弱な様子である。

穂庵の「乞食図」には、「鉄拐仙人」や《乞食大燈像》のような気迫(あるいは鬼気)がより強く表れている。その相貌表現の険しさは、明治初期の乞食が「政治的に創出された窮民」、すなわち「無禄無産化した士族層」を多数含んでいた<sup>38</sup>現実と無関係ではないだろう。彼らは本来乞食ではなく、時代の流れの中で望まずして窮することになった

人々である。

世俗の視線を意にも介さぬような《乞食図》の異様な眼力から、鑑賞者の側へ敢えて方向付けられた《乞食之図》の視線へと、穂庵の「乞食図」の眼は変化している。こうした視線の変化には、貴紳＝政治家たちへより積極的に自省を促すような意図があったのではないだろうか。深読みかもしれないが、穂庵の「乞食図」に込められた意図は、作品で若干異なっているように思われる。《乞食図》にはなまなましい人間の存在感や、見る者の目を捉えて離さない強さによって社会を顧みさせようとする意志が、《乞食之図》にはその場しのぎの救済を無視し、こちらに視線をなげかける乞食のまなざしに本質的な社会改良を問う意図があった、とも想像される。穂庵の「乞食図」は、順信ら政治家をはじめ、近代の社会状況に問題意識をもつ人々に、よりよい政治の在り方について考えさせていたのかもしれない。

## おわりに 一地方における「近代」の表象

「平福穂庵が、その時、等身大の乞食の絵を出して審査官を驚かしたのは有名な話である、私もその作を覚えて居るが、乞食が面桶を持って突立つたまま食べている處を描いた大胆極まるものであった、所が審査官中には一人として此の作に注意するものがなかった、唯、明治天皇が会へ行幸の砌、暫し画の前に玉歩を停めさせ給うて、じつと御覧になつたことを覚えて居る。」  
(金井紫雲「還暦の轡音翁」『中央美術』2月号、1925)

本稿では、「乞食図」の制作年代を検証し、史料から出品歴を再考した。その結果、《乞食図》(図1)が初発の「乞食図」であり、第一回内国絵画共進会の受賞作であると考えられた。さらに、この出品が角館出身の県会議員・佐藤順信の関与によって実現したことから、順信との関係性や秋田の社会状況を考慮し、《乞食図》(図1)自体が当時の政治的風潮の中に制作された可能性を提起した。また、直接的契機として「秋田改進黨」の結党(明治15年6月)を想定した。

加えて本稿では、《乞食図》の制作は、ポーズモデルを用いた写実と、絵画的創作を融合させる手法によるものと推定した。そうした手法が功を奏し、迫真的で人の眼をひきつける独自のインパクトにつながったと考えられる。

近代秋田の絵画において社会的動向と密接に結びついたように見える作例は少なく、その点でも《乞食図》は貴重な一作である。明治初期の画家が様々な面で「近代化」に対峙し、その中に新たな画題や表現を切り拓いてきたことを、《乞食図》は今に伝えているのではないだろうか。今回の調査では秋田博覧会出品作の特定に至らなかったため、引き続き調査することで乞食図の制作契機を検討したい。また、「乞食図」のような時代の変化を表わす他作家の作例探索や、社会を描いた百穂初期の画業に「乞食図」が与えた影響についても考えていきたい。

日本画家・小堀鞆音は先に示した『中央美術』記事内で、明治天皇がしばし《乞食図》を御覧になった様子を回顧している。この回想は、単に穂庵の卓越した画力を賞賛することどまらず、近代化の途上に地方に生じた痛みが、近代国家の頂点にある天皇に通じた瞬間を示すものとも言い換えられる。穂庵が「惻隱の情」を抱かせようとした「貴紳」の最たる存在に目を留めさせたというこの逸話は、表現がもつ「力」の強さを感じさせてくれるものでもある。

## 謝辞

本稿は2024年7月27日(土)角館町文化財保護協会で紹介した内容を補って執筆しました。種々のご教示を賜りました中田達男氏、小田野直光氏、秋田県公文書館・畑中康博氏、作品調査にご協力くださいました関係各位に厚く御礼申し上げます。

## 註

- 1 古田亮「平福穂庵」『ひらく』2020年
- 2 太田和夫「平福穂庵の作品検証—変革の時代に生きた地方画家—(補遺)」『秋田県立博物館研究報告第35号』2010年、p. 96(p. 7)
- 3 「没後130年 平福穂庵展」(2019年11月16日～2020年2月2日、秋田県立近代美術館)。
- 4 「第一回内国絵画共進会規則」(『近代日本アート・カタログ・コレクション001 内国絵画共進会』ゆまに書房 2001年、p. 386)に掲載されるひな形(左)と、「乞食図」の褒状票(右)は同型である。当時、出品作は全て額装で展示されたため、軸の形に表装替えされた際、褒状票を上巻絹に取り付けたものと思われる。



- 5 太田桃介「平福穂庵 日本画に新風をおくった」『秋田の先覚』1968年、p. 118
- 6 穂庵には骨格標本を描いたような《骸骨図》(明治9年、仙北市立角館町平福記念美術館蔵)が残るが、《素描帖》とは骨の形が異なることから、出典は別と思われる。
- 7 穂庵が人体構造を重視したことを示す逸話として、弟子が制作した文覚上人の右腕を穂庵が気に入らず、切り落として改作を命じたとする角館祭礼の山車人形の話が想起される。(田口掬汀「穂庵先生と其門人」『秋田県人雑誌』9月号、1943年、p. 10)
- 8 『角館誌』第10巻 美術・文芸編、「角館誌」編集委員会、1981年 p. 112-118
- 9 小田野直光氏のご教示による。
- 10 「士族卒明細短冊 角館分 第24号」主水家35石、主馬家20石、長右衛門家(小田野直武の子孫)20石、兔毛家25石。
- 11 『角館誌』第6巻、1975年、p. 60。なお、百穂は弥六の家の様子を次のように綴っている。「小学校の窓から小人町通りの翁の家と相対して居た、木槿や楓の生け垣で後ろに大きな榎の木があった。屋根越しに低い四山も見える、時々機織る梭(ひ)の音も洩れ聞えた、今は此家此櫺共に焼けて忍ぶに由がない。」(平福百穂の回想、『白虹』第10号、萬流古吟社、1909)
- 12 田中惣五郎「秋田事件—覚え書的に—」『秋田県の自由民権運動』1981年11月、秋田近代史研究会、みしま書房、p. 110
- 13 前掲註5、p. 118、および『角館誌』第10号、1981年、p. 146。
- 14 平福百穂「余が幼時の記憶に存する櫺窓翁」『白虹』第10号、萬流古吟社、1909。
- 15 「画人穂庵翁小伝」は『秋田魁新報』642～647号に連載された文章で、続く648・649号に生前交流のあった漢学者たちの付言が連載されたと伝わる。同新聞のマイクロフィルムには該当部分が残らず、現在は写本(升屋柳雨写・秋田県立図書館蔵)が内容を伝える。
- 16 本名・伊藤直純(いとうなおずみ・1861-1933)、出羽国金沢生、号・耕餘。

- 17 『秋田県史』1975年、p. 120-121
- 18 「第三期秋田博覧会報告書 内務大蔵両省へ上申」『明治13年分 勸業課諸務掛事務簿 秋田博覧会之部 一番』(秋田県公文書館蔵、930103-07791)
- 19 『中央公論』通号440号、中央公論社、1924年10月 p. 57-87。小説家・村松梢風(1889-1961)は、様々な人物評伝を残した。『中央公論』の編集者は秋田市出身の滝田樗陰(1882-1925)である。
- 20 『復興中央美術』(25号、1935年)に西村南岳の作品評に「穂庵が37歳の春、上野不忍池畔の弁天社内で、美術協会の前身たる龍池会の絵画展覧会が開催されたので、翁は秋田から遥々『櫻樹乞食圖』の一図を出品」(同書p. 35)とある。
- 21 山本文志「平福穂庵年譜」『秋田美術』No. 42、秋田県立近代美術館、2006年、p. 24  
観古美術会は明治10年代、諸家所蔵の古美術品を展示する目的で開催された。2回目の会場は浅草松葉町海禅寺で、村松の言う辨天社内ではない。
- 22 『明治十七年一月ヨリ 勸業課工商掛事務簿 博覧会之部一番』(秋田県公文書館蔵、930103-07791)
- 23 廣業(1866-1919)は穂庵の勧めで明治21年に上京、東陽堂の美術雑誌『絵画叢誌』の仕事を穂庵から引き継ぎ、東京での活動の基盤を築いた。
- 24 『近代日本アート・カタログ・コレクション001 内国絵画共進会』第1巻(ゆまに書房、2001年5)に、穂庵の名前が補筆される『農商務省版 改正絵画出品目録』(明治15年10月)が掲載。
- 25 穂庵の渡道期間については諸説あるが、筆者の得た書簡の翻刻メモを勘案すると、明治15年春頃に帰郷し秋田にいたものと推測される。明治15年10月には北海道での制作が確認できる。
- 26 紅紫喃史「民政黨人國記 秋田縣の巻(上)」『民政』第12巻2号(通号292)、民政社、1938年2月
- 27 中田達男「角館佐藤家の歴史と変遷」私家版、2025年
- 28 『角館誌』第5巻、p. 70
- 29 蓮沼一郎『来しかたのみち』1982年9月、p. 197
- 30 加藤昭作『評伝 平福百穂』短歌新聞社、2002年、p. 154
- 31 明治11年6月20日、保戸野学校修築費へ三円を寄付。『明治十一年六月 第一課庶務掛事務簿 賞譽献金等之部 九番』(秋田県公文書館蔵、930103-08473)。明治13年3月11日、博物館建築にあたって氷屋所を献納。『庶務課諸務掛事務簿 明治十三年三月より四月中旬 賞譽献金等ノ部』(秋田県公文書館蔵、930103-08495)
- 32 明治史料研究連絡会編『明治史料第六集 明治前期府県会議員名簿(上)』明治史料研究連絡会、1959年、p. 5
- 33 秋田県議会秋田県政史編纂委員会編『秋田県政史』下巻、秋田県議会、1956年、p. 220
- 34 柴田浅五郎が設立した政社「秋田立志会」による、政府転覆計画を目した資金調達のための強盗事件。
- 35 「第二章 自由民権運動」『秋田県史』第5巻、1977年、p. 55。同党は「一 善美ナル立憲政体ヲ賛立スル事、二 王室ノ尊榮ヲ保全シ人民ノ權利幸福ニ増進スル事、三 内治ノ改良ヲ主トシ國權ノ拡張ヲ期スル事」を趣意に活動を展開。しかし明治17年に分裂騒動が起こり、党勢は減退した。
- 36 漢学者として家塾を経営しながら師範学校教授も務めた。父・次功とともに、穂庵の画作を支えた。明治14年4月より県会議員。
- 37 前掲書註2、p. 96。なお穂庵には、現実の社会福祉事業を描いた明治22年の作として《感恩講施米図》がある。
- 38 副島望「明治前期における浮浪・乞食の福祉的処遇—わが国における労働者陶冶の試みを探って—」『社会福祉』第55号、2014年、p. 175

【図版】平福穂庵筆「乞食図」をめぐる人物と制作背景



図1 《乞食図》(乞食A) 綿本墨画淡彩、秋田県立近代美術館蔵  
※制作年は明治13年(1880)として収蔵



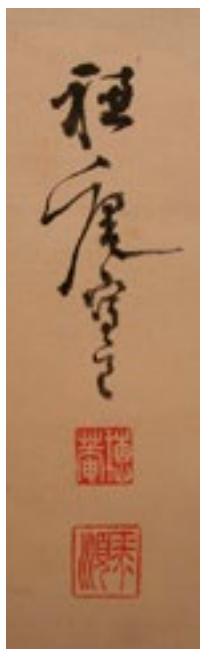
図2 《乞食之図》(乞食B) 絹本着色、秋田県立近代美術館蔵  
※制作年は明治13年(1880)として収蔵



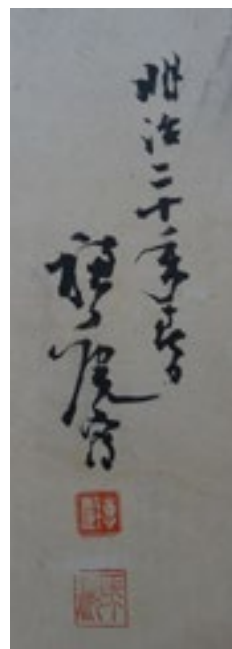
(图3)



(图4)



(图5)



(图6)



(图7)

(图3)《乞食図》制作年不詳、絹本着色、個人蔵

(图4)《蝦蟇仙人》紙本着色、明治7年、秋田県立近代美術館蔵

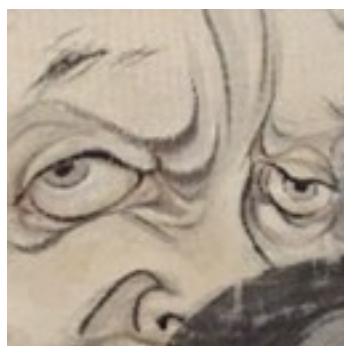
(图5)乞食B落款部分

(图6)《竹林七賢》落款部分、明治20年制作、仙北市立角館町平福記念美術館蔵

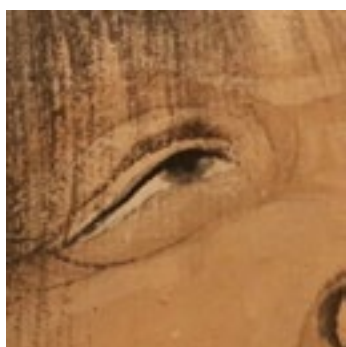
(图7)《墨堤舟游》落款部分、明治20年頃制作、当館蔵



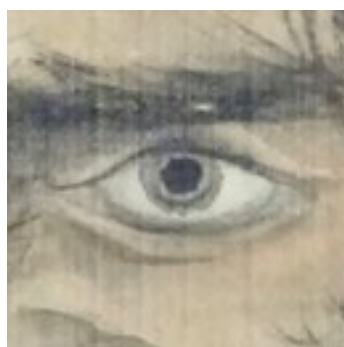
(图8) 乞食A部分



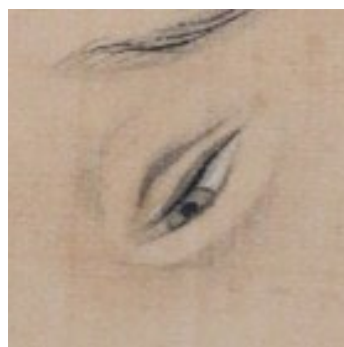
(图9) 乞食B部分



(图10)



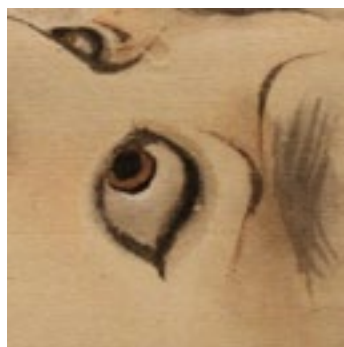
(图11)



(图12)



(图13)



(图14)

(图10)《蝦蟇仙人図》(明治9年、当館蔵)部分

(图11)《アイヌ婦漁図》

(明治17年頃、仙北市立角館町平福記念美術館蔵)部分

(图12)《黄初平》(明治20年、秋田市立千秋美術館蔵)部分

(图13)《墨堤舟游》(明治20年頃、当館蔵)部分

(图14)《祐天上人霊夢》(明治22年、当館蔵)部分



(図15) 乞食A(部分)



(図16) 乞食B(部分)



(図17)《乳虎》(部分) 明治23年、当館蔵



(図18)《羅漢尊者之図》(部分) 明治22年頃、当館蔵



(図19)《素描帖》仙北市立角館町平福記念美術館蔵

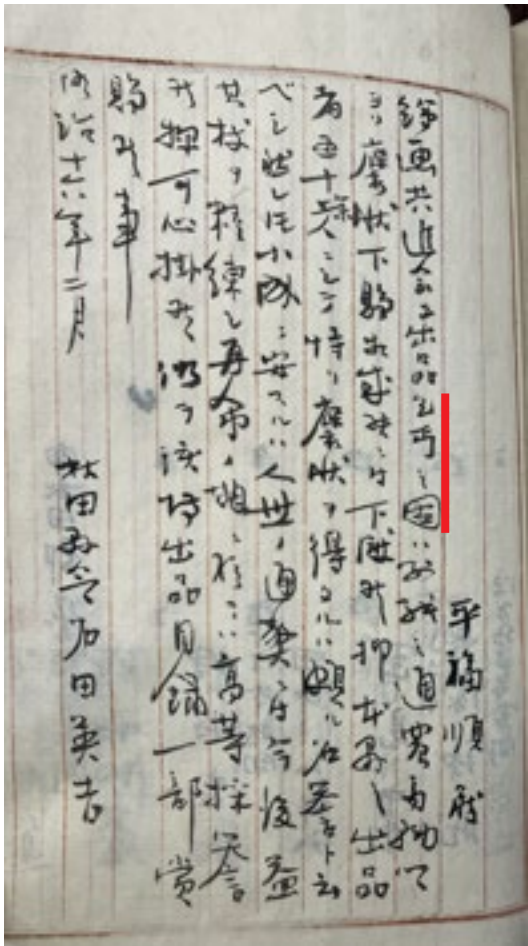


(図21) 平福百穂「葉書」明治41年9月28日、大仙市アーカイブス蔵資料番号: 貴1-3143263(高階家)。同席する君田武治は弥六とともに戊辰戦争を戦った士族である。



(図20) 「小田野櫛窓の肖像」『角館誌』第十卷美術・文芸編、「角館誌」編纂委員会、1981年、p. 113掲載。





(図24)『勸業課工商掛事務簿 共進會之部 全』秋田県公文書館蔵



(図25)《洛中洛外図屏風》(歴博甲本)左隻第5扇中下(部分) 江戸時代・16世紀前期、国立歴史民俗博物館蔵



(図26)《一遍上人絵伝 卷第7》(部分・堀川の景) 鎌倉時代・13世紀、東京国立博物館蔵 Image:TNM Image Archives

# 2025 コレクション展 第2期「三浦明範 VERITAS」開催記念 洋画家・三浦明範氏インタビュー

学芸主事 奈良 香

2025年10月9日から26年1月4日まで、コレクション展第2期「三浦明範 VERITAS」を開催した。当館の開館当初から所蔵している三浦氏の作品4点に加え、24年に寄贈を受けた作品11点を合わせた全15点と資料により、初期から近年までの画業を通観することができた。展覧会の開催を記念して行ったインタビューでは、美術の道へ進むことになったきっかけや、独自の表現がどのように生まれたか、また現在の秋田における文化芸術に対する思いなどを伺った。

## 1 画家への道程 — 秋田での少年期と東京での大学時代

—— 三浦先生は大館市のお生まれで、中学時代に秋田市へ転居されたのですね。美術に興味を持つようになったのはいつ頃だったのでしょうか。また、何かきっかけがあったのでしょうか。

三浦 中学2年生の春に、大館から秋田に引っ越しました。旧・高清水中学校に転入したんですが、3年生の時の担任が、美術の先生だったんです。後に秋田大学の教授になられた横山智也先生ですね。それまでずっと、小中学校の図工・美術は“楽しい遊びの時間”という感覚だったんですが、横山先生の授業は少し論理的で、どこか違うと感じていました。鮮烈だったのは、横山先生が「もっと美術を学びたいから進学する」という理由で、中学校の教員を辞めてしまったことですね。

—— 新天地での美術の先生が、担任になったその年のうちに辞められたのですね。

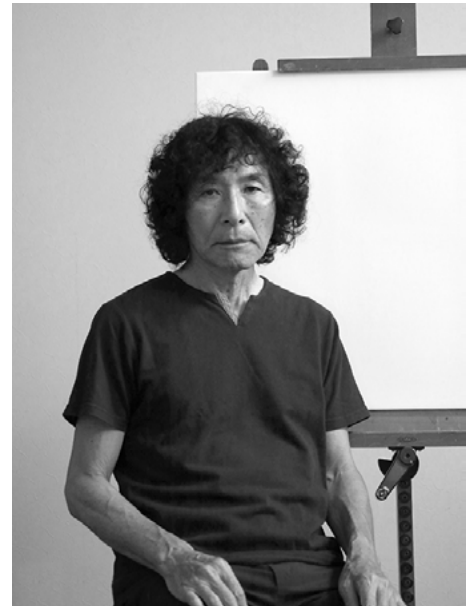
三浦 そうなんです。まだ若い先生が職を辞めるということ自体が初めての経験で、子ども心にとっても不思議な感じがしました。それと同時に「美術は遊びの時間じゃない、勉強するものなんだ」と意識するようになりましたね。「そういう人生の選択肢もあるんだ」という刺激にもなりました。

—— その後、秋田高校に進学されますが、本格的に絵を描き始めたのはその頃からでしょうか。

三浦 高校では、芸術の授業が「音楽」と「美術」の選択制だったんですよ。入学の際に、希望は「美術」にしたんですけど、人数調整で「音楽」に回されてしまいました。だから、高校1年生の時は、美術の授業を受けることもできず、美術部に入るわけでもなく……。



展覧会ポスター画像



三浦明範氏

—— まったく美術と関わりがなかったのですか？大学では美術系の学科に進学されていますよね。

三浦 友人から頼まれて、文化祭などのポスターを描くことはありました。本当に「絵」と言えるようなものを描いたのは高校3年生になってからですね。その年、伊藤康夫先生が新しく赴任されてきたのですが、とても熱く美術を語る方でね。それに影響されて「じゃあやってみよう」と。それが始まりです。

—— 伊藤先生との出会いをきっかけに、わずか1年で国立大学の美術系学科に合格されたのですね。受験科目に実技もありますし、大変だったと思いますが。

三浦 当時は秋田に美術予備校もなかったもので、伊藤先生のお宅に何度か通って受験対策の石膏デッサンを習ったりしましたね。高校の同期生たちは優秀な人ばかりだったんですが、自分はなかなか進路を決められなくて、最後の選択肢として残ったのが美術でした。それも「自分には絵しかない！」というような恰好の良いものではなくて、あの頃は「秋田を出たい」という思いの方が強かった気がします。教員になりたいと思ったことはありませんでしたが、経済的な面から考えても国立しかないということで東京学芸大学に行ったわけです。

—— 大学では、どのようなことを学ばれたのでしょうか。

三浦 入学してみたら、自分と同じように「教員志望ではないけれど、美術予備校にはあまり通えなかった」というような境遇の人が多くて、居心地は良かったですね。1～2年生の時は、日本画や彫刻、工芸など、美術のあらゆる分野を体験するカリキュラムでした。一つのことを専門的にやってきた人に比べて、色々試すことができたのは結果的に良かったと思います。様々なものが自分の中に集まってくる感覚がありました。

—— その中で、絵画が最も合っていた。

三浦 絵を描いている時が一番、自分の中でストンと落ちる感覚があったんです。中世の絵画を見て、「こういう表現の方が自分には合っているんだろうな」と感じたりね。

—— テンペラ技法に出会われたのも大学時代ですね。

三浦 2年生の時にテンペラという存在を意識し始めました。ただ、当時はテンペラを専門に教えてくれる教授はおらず、全くの手探りでした。チェンニーノ・チェンニーニの英訳本を唯一の



伊藤康夫《逃荒の部落》  
1978年 油彩、キャンバス  
秋田県立近代美術館蔵

手がかりに、詳しい人を見つけては話を聞くのですが、誰も実際にやったことがないから、いい加減な情報ばかり。「卵で描くらしい」「うずらの卵がいいらしい」とかね。自分で試行錯誤するしかありませんでした。

## 2 技法の探求 — テンペラと油彩の混合技法

— 大学の卒業制作は油彩で描かれたそうですが、卒業後は再びテンペラに戻られたのですね。

三浦 「卒業制作でテンペラを使いたい」と教授に相談したら、「油彩の指導をしてきたのだから、油彩画を」と言われました。その指摘も当然だなと思ったので、卒業制作は油彩で描きました。それが純粋に油絵具だけで描いた最後の作品です。やはりテンペラの方が自分に合っていると思ったので、卒業後は再びテンペラに戻りました。

— そこから、独自の「テンペラと油彩の混合技法」にたどり着かれたのですね。確立された古典技法をそのまま踏襲するのではなく、ご自身で応用を加えられた背景には、どのようなお考えがあったのでしょうか。

三浦 私は、確立された技法をそのままやる、ということができない性分なんでしょうね。昔からそうだったんですが、まずはその技法を徹底的に知りたくなる。そして、知ってしまうと興味が薄れて、それをそのまま使うのではなく、応用して何か新しいことをしたくなる。古典的なテンペラ技法もある程度分かってくると、それだけでは満足できなくなりました。テンペラはフラットな面やシャープな線を描くのに適していますが、油絵具のように滑らかなグラデーションは作りにくい。一方で、油絵具は乾きが遅いからこそグラデーションが作りやすい。ならば、両方の良いところを取り入れてみよう、という発想に至ったわけです。

— つまり、テンペラ特有の速乾性やシャープな描線と、油彩ならではの透明性や滑らかな階調表現、双方の長所を融合させようと試みられたのですね。

三浦 ええ。大学卒業後、しばらくはテンペラとアクリル絵具を組み合わせる実験もしていました。そんな中、1970年代に日本でウィーン幻想派が紹介され、「混合技法」という言葉が出てきました。彼らも油彩とテンペラを使っているらしいと。幻想派の混合技法は、ルネサンスの古典技法ではなく、20世紀に生まれた新しい技法です。古典をそのまま踏襲するのではなく、工夫して新しい表現を生み出すという点で、自分がやろうとしていたことと一致していました。



三浦明範《斜線の風景》  
1984年 油彩・テンペラ、キャンバス  
秋田県立近代美術館蔵

### 3 転機 — ベルギーでの思索とシルバーポイントへの移行

—— 1996年から97年まで、文化庁の在外研修員としてベルギーに滞在されます。この経験が大きな転機になったそうですね。

三浦 ベルギーへ渡ったのは、正直に言うと、スランプから抜け出したいという気持ちが大きかった。当時は展覧会の誘いも多く、「描きたい」からではなく「描かなければいけない」という脅迫観念に駆られていました。そんな状態で良い絵が描けるはずがない。そこから離れて環境を変える良い機会だと思ったんです。

—— 本来の研究目的は、初期フランドル絵画だったと伺っています。

三浦 油絵具が確立された初期、ヤン・ファン・エイクなどの時代の、テンペラと油彩が混在していたであろう技法に興味がありました。しかし、現地で研究してみると、自分の中で「なるほど、こういうことか」と区切りがついてしまった。また例によって、分かってしまうと興味が薄れてしまったんです。

—— そこでシルバーポイント(銀尖筆)に移行されたのですね。

三浦 次に何をしようかと考えた時、ふと大学時代に少し試したことのあるシルバーポイントを思い出しました。きっかけは、アントワープで観たファン・エイクの《聖バルバラ》です。線だけで描かれたこの作品が、おそらくシルバーポイントだろうと直感し、また研究したくなったのです。

—— 色彩豊かな混合技法からシルバーポイントによるモノクロームへの移行は、周囲からは大きな変化と捉えられたと思いますが、ご自身の中では自然な流れだったのでしょうか。

三浦 ええ、私の中ではごく自然な流れでした。ベルギーに行く直前にも、鉛筆で白黒の作品を描いていましたし。そもそも、私の混合技法は、まずテンペラの白で明るい部分を描き起こすことから始まります。つまり、制作の初期段階ではモノクロームの明暗画を描いているわけです。最後に色を付けるか付けないかの違いでしかなく、やっていることは基本的に同じなのです。



三浦明範《シュレーディンガーの箱》  
2007年 シルバーポイント・黒鉛・墨、パネルに綿布、カオリン地  
秋田県立近代美術館蔵

### 4 制作の哲学 — 写実、死生観、宗教観

—— 先生の作品は「写実」と評されることが多いですが、ご自身ではどうお考えでしょうか。

三浦 私が目指しているのは、現実を模倣する「写実」ではなく、説得力のある世界としての「リアルさ」です。描かれた世界が、

たとえ社会的通念からかけ離れていても、それを見た人が「これは本当だ」と感じられるようなリアリティがなければならぬと思っています。

—— 静物や小動物、人物など様々なモチーフを描かれています。  
三浦 私にとっては、人間も含めてすべてが「モノ」です。生きてるとか死んでいるとか、温かいとか冷たいとか、そういう感覚的なもの以前に、まず「そこに存在するモノ」として捉えたい。その存在感を描くことに一番興味があります。ヨーロッパの絵画の根底には、まず「存在」を描くという考え方がある。日本の美術が情緒を大切にするのは対照的で、私の考え方はそちらに近いのかもしれない。

—— 人物も含め、すべてを「モノ」として捉え、その存在感自体を描くというお話は、西洋絵画の根源的な思想にも通じるように感じます。一方で、鑑賞者はどうしても人物の表情から感情を読み取ろうとします。あえて後ろ向きの人物を描かれるのは、そうした視線を意図的に逸らし、鑑賞者を作品全体へと向かわせるためでしょうか。

三浦 そうですね。人物を描くと、どうしても鑑賞者の視線は顔に行き、そこから感情や物語を読み取ろうとしてしまう。私はそれをさせたくない。絵の主題が人物の表情に支配されてしまうのを避けたいのです。だから、あえて後ろ向きにしたり、無表情にしたりしています。絵というのは、描きたくなくても自分が出てしまうもの。だからこそ、あからさまに表現するのではなく、むしろ隠した方が、鑑賞者はより深く観たくなると思っています。

—— 先生の作品には、一貫して「生と死」というテーマが流れているように思います。また、先生の作品には宗教的なモチーフが登場することもあります。その点についてお聞かせいただけますか。

三浦 死は、誰にでも訪れる普遍的なテーマです。誰も経験したことのない未知の世界だからこそ、そこへの興味は尽きない。しかし、宗教的な関心とは全く異なります。祭壇画の様式で描いた作品もありますが、私はクリスチャンではありませんし、信仰心から制作しているということではありません。むしろ、人の亡骸も陶器のコップも、等しく「モノ」としてしか眼に映らない。



三浦明範《鳥》  
2000年 シルバーポイント・黒鉛・墨、パネルに綿布、カオリン地  
秋田県立近代美術館蔵



三浦明範《再生-白い月》  
1993年 油彩・テンペラ、合板に綿布、白亜地  
秋田県立近代美術館蔵

—— その視点は、人物をモデルとして描く際にも貫かれているのですね。

三浦 基本的に、モノを描きたいという思いがあって、その中では「人もモノでしかない」という感覚です。初めて人物をモデルにして描いたのは妊娠した妻の姿でしたが、それまでは意図して描いていませんでした。人物を描くと、主題がそちらに引っ張られてしまうので。

—— シルバーポイントで描かれたモノクロームの作品になってから、その哲学がより明確になったように感じられます。

三浦 そうですね。カラーで描く意味、モノクロームで描く意味がだんだん分かってきました。カラーは喜びや悲しみといった喜怒哀楽、感情に訴える力を簡単に出せてしまう。でも、私は喜怒哀楽を表現したいと思ったことは一度もない。そういう意味ではモノクロームの方が、情緒的なものをそぎ落として、やりたいことを表現できると感じています。



三浦明範《VERITAS》  
2012年 シルバーポイント・黒鉛・墨、パネルに綿布、カオリン地  
秋田県立近代美術館蔵

## 5 秋田への眼差し —文化芸術の未来への提言

—— 最後に、ご自身の故郷である秋田の文化芸術について、お聞かせください。

三浦 秋田には秋田蘭画をはじめ、誇れる文化遺産がたくさんあるのに、それが十分に活かされていない。非常にもどかしく感じています。人を集めるためのイベント的な芸術祭も一つの方法かもしれませんが、それだけでは文化は根付きません。一過性のものではなく、何度も足を運びたくなるような、本質的な文化の発信が必要です。

—— 文化を根付かせるためには、具体的にどのようなアプローチが必要だとお考えですか。

三浦 私は、鑑賞するだけでなく「実際に描いてみる」という体験が、美術への理解を深める一番の近道だと考えています。描いてみることで、作品を観るときの視点が全く変わってくる。単に描き方を教える絵画教室ではなく、もっと研究的なアプローチで美術に触れることができるような施設が秋田にあれば、文化の裾野はもっと広がるのではないのでしょうか。

—— 先生ご自身が、秋田で何かをなさりたいというお気持ちはございますか。

三浦 昔は「秋田から早く出たい」と思っていました。年齢を重ねるごとに、「秋田で何かをするべきではないか」という思いが強くなってきています。具体的な計画があるわけではあり

ませんが、もしそうした活動ができる場があれば、ぜひ協力したい。秋田から、新しい芸術のムーブメントが生まれるくらいの気概で、何かできないかと考えています。

—— 先生、本日はありがとうございました。ご自身のルーツから現在に至るまで、制作の深奥に触れる大変貴重なお話を伺うことができました。秋田の文化芸術の発信拠点として、美術館も努力してまいります。

# 2024年 県内展覧会開催一覧

(令和 6年 1月～12月)  
※施設名 50音順

## 《県央》

**【秋田県生涯学習センター】** 〒010-0955 秋田市山王中島町1-1 Tel 018-865-1171  
展覧会なし

**【秋田県公文書館】** 〒010-0952 秋田市山王新町14-31 Tel 018-866-8301  
5/1-6/30 連携展(東成瀬村アーカイブズ・ギャラリー)  
8/22-9/23 企画展(東成瀬村アーカイブズ・ギャラリー)(前半)  
9/26-11/4 //

**【秋田県立図書館】** 〒010-0952 秋田市山王新町14-31 Tel 018-866-8400  
23/12/14-24/1/23 中村征夫写真展「顔面博覧会」(秋田県立近代美術館との連携展示)  
2/8-2/20 第49回秋田県芸術選奨受賞記念展  
(秋田県観光文化スポーツ部文化振興課との連携展示)  
3/2-3/12 あきた遺跡発掘最前線! 2023  
(秋田県埋蔵文化財センターとの連携展示)  
4/4-5/21 手づくりの味 木製看板の魅力(秋田県立博物館との連携展示)  
5/30-6/23 木版画家池田修三作品展「ものがたり」(象潟郷土資料館との連携展示)  
7/13-8/13 弘田柵跡調査成果展(秋田県埋蔵文化財センターとの連携展示)  
11/15-12/24 物語のある絵画～近代美術館のコレクションから～  
(秋田県立近代美術館との連携展示)

**【秋田県立博物館】** 〒010-0124 秋田市金足嶋崎字後山52 Tel 018-873-4121  
23/11/23-24/4/7 企画展 大こうぶつ展 鉱物を楽しむ5つのメニュー  
4/27-6/30 企画展 美の交差点 博覧会とあきたの工芸  
7/20-8/25 特別展 世界の昆虫展  
9/28-12/1 企画展 稲穂の詩～秋田と米づくり～

### 【菅江真澄資料センター 企画コーナー展】

11/25-24/1/21 『雪の出羽路雄勝郡』と『勝地臨毫雄勝郡』  
3/23-5/12 真澄が記録した「鹿角郡」  
7/27-9/23 地誌『月の出羽路仙北郡』を読む～第1期～  
11/30-25/1/26 地誌『月の出羽路仙北郡』を読む～第2期～

### 【秋田の先覚記念室 企画コーナー展】

9/21-11/24 石井露月～子規に見出された医師俳人～

**【秋田県立美術館】** 〒010-0001 秋田市中通1丁目4-2 Tel 018-853-8686  
23/11/18-24/1/21 特別展 ナショナル ジオグラフィック展 地球の真実  
// 平野政吉コレクションⅣ  
1/27-1/14 企画展 平野政吉コレクション 空を見つめる  
// 平野政吉コレクションⅤ  
4/20-6/30 特別展 日本の洋画130年 珠玉の名品たち  
// 平野政吉コレクションⅠ  
7/6-9/29 企画展 平野政吉コレクション 絵画のなかの「街」  
// 平野政吉コレクションⅡ  
10/5-12/15 特別展 ロートレックとベル・エポックの巴里～1900年  
// 平野政吉コレクションⅢ  
12/21-25/4/6 企画展 藤田嗣治 言葉をつむぐ  
// 平野政吉コレクションⅣ

### 【県民ギャラリー】

1/27-1/31 秋田公立美術大学ビジュアルアーツ専攻3年 授業成果展  
2/3-2/7 令和5年度 秋田公立美術大学附属高等学校  
第71回生徒作品展 明日のクリエイターたち  
2/9-2/11 よみうり高校生写真コンテスト2024  
2/15-2/19 秋田公立美術大学卒業・修了展2024  
3/2-3/4 第63回 全県新年書きぞめ展  
3/7-3/10 第49回 秋田県秀作美術展  
4/20-5/19 大川清一写真展 北東北 山々の輝き  
5/23-5/27 AIAA展2024  
6/1-6/3 秋田県高等学校写真連盟展  
6/21-6/26 第66回秋田県美術展覧会(写真部門作品展示)  
7/7-7/14 Ana D'Apuzzo×Altai  
7/20-7/22 書友展

7/26-7/29 第40回秋田二紀展／第59回自由美術・秋田展  
8/4-9/29 深堀隆介展 水面のゆらぎの中へ  
10/24-10/27 第63回秋田県工芸家協会展 第16回秋田工芸展  
11/3-11/11 鎌田俊夫 彫刻回顧展  
11/13-11/17 第68回 秋田美術作家協会展  
11/22-11/25 第32回秋田県高等学校総合文化祭  
第57回秋田県高等学校総合美術展(写真部門)

## 【アトリオン(秋田県総合生活文化会館)】

〒010-0001 秋田市中通2-3-8 Tel 018-836-7803

1/12-1/15 第19回 毎日書道秋田新春展  
1/18-1/21 近間義一の辰歳用年賀状原画展  
1/19-1/21 第46回 瀧の会書展  
1/19-1/23 第41回 茂逸書会展  
1/24-1/28 ファインアート秋田2024  
1/27-1/29 星群美術教室展  
1/31-2/5 秋田公立美大CD3年専攻展  
2/16-2/19 第37回「花の写真展」  
2/16-2/19 第11回 エムケイ写遊写真展  
2/9-2/12 秋田南秋地区高校美術連盟展  
2/9-2/12 全日本写真連盟秋田支部写真展  
3/1-3/4 第62回 秋田市書道会展  
3/8-3/10 川連漆器青年会「おらだの漆器展」  
3/8-3/11 第23回 電友会写真同好会写真展  
3/8-3/11 日本画 石井由美子 展  
3/9-3/10 アーティフィシャルフラワー-小林佐喜子展  
3/16-3/18 第32回 墨峰書展  
3/21-3/24 写真を楽しむ半歩の会 第7回写真展  
3/22-3/24 アキタネイチャーズクラブ作品展  
3/22-3/24 第32回 崑の会写真展  
3/22-3/25 絵画サークル『楽描』展  
3/22-3/26 グループTOPOS展2024  
3/28-3/30 リベラのぼっちわーくきと展  
3/28-3/31 きものリメイク「生徒作品展」  
4/2-4/8 林美光 金銀銅漆目金文化財特別展  
4/4-4/7 第33回こどものアトリエ展  
4/5-4/8 友禅工房 風 作品展  
4/11-4/21 宮竹真澄・心のふる里人形展  
4/12-4/14 第31回 瀧の会小品展  
4/12-4/15 第55回六葉会書展  
4/24-5/5 第79回春の院展・秋田展  
4/26-4/29 彩の会 絵画展  
5/10-5/12 一東書道会展  
5/10-5/12 第16回 写田緑風写真展  
5/10-5/13 ぐるっぺR&A水彩画展  
5/15-5/20 チャーチル会秋田春季絵画展  
5/17-5/19 第9回 秋田藍會会展  
5/17-5/19 春のバードウィーク野鳥写真展  
5/23-5/26 全日写連秋田県本部受賞作品展  
5/24-5/26 英国ヴァンテージのアクセサリー展  
5/24-5/27 『趣味の書画 宇月展』  
5/24-5/28 第22回 漆人四人展  
5/30-6/2 杉山孝史・木の仕事展  
5/31-6/4 第56回 秋田県匠家美術展  
6/12-6/16 暮しの彩り展2024  
6/14-6/16 アトリエぐらんべの絵画教室作品展 39th  
6/21-6/26 第66回 秋田県美術展覧会  
6/28-6/30 ゆる鉄画廊NOMAD秋田  
6/6-6/9 デザインと美術工芸の協奏  
6/7-6/9 陶芸サークル七窯士「作陶展」  
6/8-6/10 チベット・ネパールマングラ展  
7/27-7/28 秋大附属中学校美術部展  
7/6-8/18 サンエックス90周年 うちのこたちの大展覧会  
たればんだ・リラックマ・すみっこぐらし～みんなの生まれたところの話～  
8/2-8/4 第9回 星野文昭・暁子二人展  
8/7-8/9 令和6年度 全県高校席書大会  
8/23-8/25 星輪書展  
8/23-8/26 第63回 秋田県書道連盟展  
8/29-9/2 秋田県絵画水墨画協会作品展  
8/30-9/2 第39回 書壇院秋田連盟展  
8/31-9/2 第15回 秋田草心会書展  
9/4-9/7 第62回 秋田県造形美術展

9/11-9/17	林美光 無形文化財金銀銅漆目金展
9/12-9/16	第70回記念 孝華書院展
9/12-9/16	第86回 素心会展
9/14-9/16	第5回 秋田の書展
9/17-9/21	第38回 圭刀の会
9/20-9/22	第28回 秋田読売写真クラブ展
9/21-9/22	第3回秋田南中学校美術部展
9/21-9/23	第40回 秋田県写真公募展
	第55回 秋田県写真協会展
9/22-9/25	NTT-OB・OG余技作品展
9/26-9/30	第19回 泰書會秋田展
9/27-9/29	第45回 秋田県陶芸作家協会展
9/27-9/29	宮本康男に学ぶ藍の絞り染め展
9/27-9/30	第14回 伊藤美代子水彩画展
9/28-9/30	加賀谷妙子透明水彩画展
9/28-9/30	アトリエ華やぎ水彩画教室展
10/3-10/8	第67回 秋田市芸術祭総合美術展
10/3-10/9	秋田県美術工芸協会第41回展
10/4-10/6	アトリエ・ヴェガ手織教室作品展
10/4-10/7	アトリエYUN絵画教室作品展
10/10-10/13	第44回 水墨画展
10/11-10/14	第56回 恵花会日本画展
10/12-10/14	石川恭子 三教室合同展(洋画)
10/15-10/17	第14回 ディンプルアート合同展示会
10/15-10/19	チャールズ会秋田秋季絵画展
10/16-10/19	第一美術第38回秋田県支部展
10/18-10/20	ハートオブフラワー作品展
10/26-10/30	第87回 秋田書道展覧会
11/1-11/4	第30回 フォト自由塾写真展
11/2-11/3	Glass de Nao 作品展
11/2-11/4	佐竹史料館出張展示
11/2-11/4	第24回 全日写連秋田中央支部展
11/2-11/4	秋のバードウォッチングウィーク野鳥写真展
11/9-11/10	ティムと愉快な仲間達
11/9-11/11	第23回 秋田一先会書展
11/9-11/11	湯保絵画サークル展
11/9-11/11	糸と布で色を楽しむ・二人展
11/10-11/13	友禅工房 風 作品展
11/15-11/18	第57回 秋田県高校総合美術展 美術工芸部門
11/15-11/18	第57回 秋田県高校総合美術展
11/20-11/24	秋田ハッセルブラッドフォトクラブ写真展
11/21-11/24	ミニチュアまとい工芸展
11/22-11/25	第57回 秋田県高校総合美術展 書道部門
11/29-12/1	鳥海山カレンダー原画展
11/29-12/2	貼り絵展:カケラ集メ
12/5-12/8	表現する教師たち
12/6-12/8	金和子ナチュラルリース展VOL.33
12/13-12/17	漆・七宝・染織・籐あけび 三人プラスワン展
12/14-12/15	第三十四回 書画逸品展
12/19-12/22	今野嵩琉展「喋る羊の夢」
12/20-12/22	MOA美術館あきた児童作品展
12/21-12/22	秋田東・勝平中美術部展覧会

## 【遊学舎(秋田県ゆとり生活創造センター)】

〒010-1403 秋田市上北手荒巻字堺切24-2 Tel 018-829-5801

1/25-2/1	秋田県認定リサイクル製品展示PR
3/2-3/10	市民活動フェスタ2024紹介展示
3/16-3/17	雪割草展
3/22-4/3	花いっぱい運動写真展
4/13-4/14	早春の山野草展
6/9	春のバラ観賞会
6/15-6/16	初夏の山野草展
6/22-6/30	堀田一弥あきたスギッチファンダリティ絵画展
7/1-7/10	かがやきの丘ミニ学校展
7/13-7/26	あきた里地里山だより〜守りたい秋田の里地里山50〜
8/25	令和6年度 土砂災害防止パネル展
9/27-9/30	行政相談 パネル展および相談会
10/12-10/14	第62回 秋田県秋石会名石展
10/15-10/20	コストリカ協力50周年記念パネル展示
10/23-10/29	秋田市認知症グループホーム 合同作品展
11/15-17	秋の洋らん展
11/19-12/1	色鉛筆アトリエ歩 作品展 2024
12/3-12/15	全県花だんコンクール写真展

## 【秋田公立美術大学ギャラリー BIYONG POINT】

〒010-0976 秋田市八橋南1-1-3 CNA秋田ケーブルテレビ社屋内 Tel 018-888-8137

1/9-1/28	佐藤ことみ 個展 「言葉の向こう、無効」
2/10-2/28	岡本真実 個展「ゲルマラジオ体操第一」
3/8-3/31	飯島小雪 個展「僕らじゃない」
8/17-9/8	佐藤芽維 個展「me:all *meal」
9/14-10/14	徐津君 個展「I am more 一何百年の沈黙を破る」
11/9-12/4	青山由佳 個展「秋田と眠る。」
12/14-1/13	井上愛萌 個展「インサイド -地図帳より-

## 【秋田公立美術大学サテライトセンター】

〒010-0001 秋田市中通2-8-1 フォンテAKITA 6階 Tel 018-893-6128

1/20-1/25	秋田公立美術大学大学院複合芸術研究科 修士課程1年研究経過展
2/3-2/11	秋田公立美術大学 景観デザイン専攻3年次授業成果展 「9LD (キュービャクジュウ)」
2/15-2/19	秋田公立美術大学大学院複合芸術研究科修士研究展
2/24-2/25	AKIBI ARTs MARKET 2024
3/8-3/31	卒業生シリーズvol.12 安村卓士「ずるずる構築体」
4/13-5/5	彫刻造形原論 授業成果展
5/10-5/21	秋田公立美術大学有志4人展「Vitals」
5/30-6/4	秋田公立美術大学アーツ&ルーツ専攻3年生展「おむすび」
6/16-7/13	藤澤秀一朗 個展「アート・ジャングル」
7/18-7/23	秋田公立美術大学アーツ&ルーツ専攻4年ありんこ成果展「ありのまま」
7/27-8/25	工房「雑がみランド」
8/30-9/8	郷六沙羅個展「或る世の記述」
9/20-9/23	秋田公立美術大学ものづくりデザイン専攻3年次授業成果展「ひかた」
10/1-10/14	秋田公立美術大学アーツ&ルーツ専攻4年 伊藤あかり個展 「はらこめしこてん」
10/19-11/4	第3回 秋田公立美術大学・附属高等学院合同作品展「美術のきほん」
12/13-12/26	秋田公立美術大学ものづくりデザイン専攻 研究生 研究成果展「星を象る」

## 【情報発信コーナー】

23/12/19-1/14	「ドンパン娘 桜田まどか誕生までのあゆみ」
3/8-5/26	コッパーズ
6/24-7/13	KOMA展 vol.1
8/3-9/10	KOMA展 vol.2
10/5-11/2	全国高校生 何でも、アリ。応募動画公開展示
11/10-12/1	KOMA展vol.3
12/7-12/27	KOMA展vol.4

## 【秋田市立赤れんが郷土館・勝平得之記念館】

〒010-0921 秋田市大町3-3-21 Tel 018-864-6851

## 【赤れんが郷土館】

10/28-24/2/4	〈企画展〉CRAFT&DESIGN ～つなぐ～秋田の美・技
2/10-5/12	〈企画展〉重要文化財「旧秋田銀行本店本館」の魅力
5/18-7/15	〈企画展〉勝平コレクションでみる浮世絵の楽しみ(前期)
7/19-9/1	〈企画展〉勝平コレクションでみる浮世絵の楽しみ(後期)
9/7-11/24	〈企画展〉勝平得之生誕120年記念 秋田の四季 ～創作版画家・勝平得之展
11/30-25/2/24	〈赤れんが郷土館・秋田公立美術大学連携企画展〉 秋田アーツ&クラフツ

## 【勝平得之記念館】

10/28-24/2/4	秋田の自然と風俗～農村の四季～
2/10-5/12	秋田の自然と風俗～雪国の子どもたち～
5/18-9/1	秋田の自然と風俗～四季の街～
9/7-11/24	秋田の自然と風俗～花の歳時記～
11/30-25/2/24	秋田の自然と風俗～農村へのまなざし～

## 【関谷二郎記念室】

10/28-2024/5/12	人間国宝の技と美(後期)
5/18-11/24	鍛金へのいざない(前期)
11/30-25/5/11	鍛金へのいざない(後期)

**【秋田市立佐竹史料館】** 〒010-0876 秋田市千秋公園1-4 Tel 018-863-0770  
リニューアル工事のため、展覧会なし

**【秋田市立千秋美術館】** 〒010-0001 秋田市中通2-3-8(アトリオン内) Tel 018-836-7860  
[岡田謙三記念館(常設)]  
リニューアル工事のため、展覧会なし

**【秋田市文化創造館】** 〒010-0875 秋田県秋田市千秋明徳町3-16 Tel 018-893-5656  
1/20-2/4 PARK - いきよとつくるのにわ 展覧会「交わるにわ、創造するキッチン」  
7/20-8/4 「漂着する思考 - 新屋浜をめぐる現代作家との対話 -」  
8/7-8/19 秋田市・パッサウ市姉妹都市提携40周年記念写真展「Flow/Glow」  
11/7-11/17 クリエイター・イン・レジデンス 2024  
mizutama練習プロジェクト -10デイズ ランスルー -  
12/4-12/12 防災ITSUMO展示

**【アトリエももさだ】** 〒010-1632 秋田市新屋大川町12-3 Tel 018-888-8100  
10/5-10/19 布キレの日本文化誌 時空想をつなぐ布の力

**【アラヤイチノ】** 〒010-1638 秋田市新屋表町8-11 Tel 018-888-8478  
6/10-6/16 ゆるやかにいきましょう  
10/3-10/8 秋田公立美術大学ビジュアルアーツ専攻3年生課題展「Re-mix juice」  
10/12-10/19 2人展「歩み〜うらりとほなさんの足跡展〜」

**【新屋NINO】** 〒010-1637 秋田市新屋扇町84-27 Tel 018-888-8478  
2/29-3/7 見つめる  
4/13-4/22 Dreaming Garden  
5/1-5/8 open 百八 doors  
5/15-5/22 はしっこ展 日常編  
6/20-6/28 Runway  
7/4-7/9 齋藤こまち個展「甘点」  
7/14-7/21 Nightcore  
7/27-8/7 AUA Craftersサークル展II  
10/3-10/8 秋田公立美術大学ビジュアルアーツ専攻3年生課題展「Re-mix juice」  
11/15-11/17 三人展「Trip!」  
12/1-12/8 秋田公立美術大学9期生3人展「Re:ING -リング-」  
12/14-12/22 昨日の洗たく物、二日目のカラー

**【ギャラリーあい】** 〒010-0911 秋田市保戸野すわ町3-27 Tel 018-864-7294  
1/5-1/23 龍騰雲起・新年を寿いで  
2/9-2/25 花に寄せて・春を待つ  
3/15-3/24 油井日出男のステンドグラス展'24 萌える春の中  
4/18-5/14 陣内敦の世界 ムシムシジンジン・ぼくたちの大地  
6/6-6/23 塚本猪一郎 カレンダー作品を今一度  
7/11-7/23 // オブジェ的絵画を  
8/1-7/27 常設展企画 盛夏、残暑お見舞展  
9/12-9/27 梅田美里の和紙スクリーンの魅力  
10/10-10/26 ギャラリーあい35周年に寄せて 2024.吉田直未の世界展  
11/7-11/30 ギャラリーあい35周年アラカルト(常設展から)  
12/5-12/24 2024.あなたへのクリスマスプレゼント展

**【響画廊】** 〒010-0001 秋田市中通2丁目1-22 Tel 018-833-6121  
1/5-3/30 馬場彬&ジョン・レノン展 平和を唄う  
4/5-6/25 馬場彬&横山津恵(風薫る)展  
7/1-9/30 馬場彬&紺野五郎「賛歌」展  
10/5-12/28 馬場彬&星野道夫読本展(写真と本)

**【ギャラリー杉】** 〒010-0921 秋田市大町1-3-27 Tel 018-866-5422  
1/4-1/30 女流作家展  
2/1-2/13 立雛展  
2/15-2/27 桜井敬史日本画展  
2/29-3/12 佐藤隆春油彩画展  
3/14-3/26 泉東臣日本画展  
3/28-4/9 宝永たかこの世界展  
4/11-4/30 武田優作油彩画展  
5/9-5/21 安田早苗油彩画展  
5/23-6/4 長谷川知美日本画展  
6/3-6/18 高橋晋市木彫展  
6/20-7/2 清見佳奈子日本画展  
7/4-7/16 大須賀勉作品展  
7/18-8/6 吉本哲油彩画展  
8/19-9/3 磯谷慶子・持永貞子 陶器とガラス2人展  
9/5-9/17 小川和也作品展  
9/19-10/1 佐藤国男木版画展  
10/3-10/22 倉前幸徳作陶展  
10/24-11/12 濱岡朝子作品展  
11/14-12/3 第32回チャリティー・アート展  
12/5-12/24 成田康油彩画展

**【ココラボラトリー】** 〒010-0921 秋田市大町3丁目12-11 川反中央ビル1階 Tel 018-866-1559  
2/9-2/18 山note ヤマノオト / 田村一展  
3/15-3/17 aimi作品展 からまる寿篤  
3/20-3/24 皆川嘉博展 -Rootsを刻む-  
4/19-4/21 長倉陽菜野 ねご写真展 in秋田市初進出  
5/3-5/5 bias solo exhibition「LIFE WORKS」  
5/16-5/19 妄想と想像  
6/6-6/9 北の布物語 天野洋子の古布三昧展「初夏」  
6/13-6/16 気配 -うつりかわるときに- まつはしまりこ個展  
6/21-6/23 羊毛の手仕事展  
6/27-6/30 池田美術教室 社会人コース作品展 etude2024  
7/5-7/6 アオイノ セカイ〜美しい心〜 佐藤美波 絵画展  
8/22-8/25 今井恒一 個展  
9/6-9/8 魚津悠 関由美 2人展  
10/4-10/6 型紙と型染展 型紙制作=草薙脩  
10/23-10/27 ななてん  
11/1-11/4 Ko to zen Vol.2  
11/8-11/10 成瀬日香留・畑山明日香 二人展  
11/13-11/17 勝平得之と私と  
11/20-11/24 第10回展示即売会 新生八橋人形展  
12/11-12/15 真坂人形展示販売会 ~真坂人形で冬支度2024~  
12/20-12/22 高橋俊介 個展 GOOD CHAOS  
12/29 デザ筋トレ忘年会 2024

**【さきがけホール】** 〒010-8601 秋田市山王臨海町1-1 秋田魁新報社1階 Tel 018-888-1800  
1/25-1/28 第15回県新春書初め席書大会展覧会  
1/25-1/28 県書道連盟「第8回新春小品書展」  
1/25-1/28 2024全国地方紙新年号展  
7/5-7/7 秋田水石同好会展  
8/8-8/10 第65回全県児童・生徒席書大会展覧会(小・中学校の部)  
10/12-10/18 さきがけヒストリー展  
10/25-10/27 県盆栽連合会「秋季盆栽展」  
11/16-11/24 第16回新聞きりぬぎコンクール入賞作品展  
12/15-12/22 写と書の未来展2024

## 【にかほ市象潟郷土資料館】

〒018-0104 にかほ市象潟町字狐森31-1 Tel 0184-43-2005

6/8-25/5/25	象潟郷土資料館企画展「『おくのほそ道』最北の地・象潟」 (象潟郷土資料館)
6/8-25/5/25	池田修三作品展「Look-まなざし-」(象潟郷土資料館)
11/2-11/4	池田修三木版画展「ものがたり」(象潟公会堂)

## 【仁賀保公民館(むらさぎ荘)】

〒018-0402 にかほ市平沢字馬飼森30 Tel 0184-37-3121

1/4-1/31	田村純悦 こけしと香合展
2/1-2/29	和洋裁りメーク作品展
3/1-3/31	書の楽しさを筆にこめて
4/1-4/30	絵画ホビー展
5/1-5/31	2024写友にかほ写真展
6/1-6/28	絵手紙で心を伝える喜びを広げよう
6/29-7/31	つるし飾り
8/1-8/30	デザイン画展
8/31-9/30	作陶展
10/1-10/15	秋田県ゆり支援学校ミニ学校展
10/1-10/15	令和5年度仁賀保高等学校 地域課題解決プロジェクト発表ポスター展
11/1-11/30	SAKUIV～折りの花、静寂のあかり
12/1-12/27	プリザーブドフラワー

## 【本荘郷土資料館】

〒015-0011 由利本荘市石脇字弁慶川5 Tel 0184-24-3570

23/9/16-1/14	本荘のお殿様 六郷家が残した文化財展
2/10-4/13	由利本荘ひな街道
4/20-8/25	由利本荘の名工展
9/16-25/1/14	日本遺産「北前船」展 荒波を越えて絆いた歴史と文化

## 【由利本荘市文化交流館 カダール】

〒015-0076 由利本荘市東町15 Tel 0184-22-2500

1/27-1/28	由利本荘・にかほ地区高等学校美術書道展
2/3-2/7	第19回由利本荘美術展
3/16-3/18	第34回三道書道教室「書の作品展」併催 第13回TDK社友会 書道同好会書道展
3/16-3/18	佐々木平等・書・線の力、ことばの力inカダール厳選展
4/12-4/14	キャノンフォトクラブ本荘 第13回写真展
4/19-4/22	日展連続入選記念 第43回加藤新市絵画展
5/10-5/12	第27回本荘押花すみれ会 押花絵展
5/31-6/2	第36回春季盆栽展示会
6/16-6/19	第19回新美会 絵画展
6/28-7/1	第30回青洋会書展 併催 第45回子ども書展
7/13-7/15	令和6年度 本荘由利席書大会
8/12-8/18	由利本荘市・由利鉄写真コンテスト 写真展
8/23-8/25	アイ・アート・クラブ 30周年絵画展
9/14-9/15	第52回由利本荘市児童・生徒科学作品展
9/20-9/23	大須賀勉作品展併催絵画教室展
9/21-9/22	ねこの写真展
9/28-9/30	第48回本荘陶芸クラブ 作陶展
10/5-10/24	池坊ミニ花展示と生け花体験会
10/14-10/17	第75回児水会展
10/15-10/17	第37回秋季盆栽展
11/2-11/6	五島まさを画業60周年記念展
11/15-11/17	第36回本荘生涯学習創作展
11/23-11/25	本荘由利 図工・美術の学び展
11/29-12/1	第13回全日写連秋田ゆり支部写真展
12/2-12/4	2025年ぐるっと巡る鳥海山オリジナルカレンダー「鳥海燦々」原画展
12/23-12/26	第33回高橋宏幸賞感想文・感想画コンクール 優秀作品展・高橋宏幸氏原画展

## 《県北》

## 【いとく大館ショッピングセンター】

〒017-0044 大館市御成町3-7-58 Tel 0186-49-1717

2/23-2/25	2023年度 大館・秋北地区高等学校三校合同美術展 (鳳鳴高校・桂桜高校・国際情報高校)
2/15-2/28	税に関する絵はがきコンクール展示(公益財団法人 大館法人会)
3/22-3/24	二人展(たかはし:フォト、やしろ:ペイントアート)高橋恒夫/八代文夫
4/30-4/31	昭和のプラモ展(Mクラフト)
5/10-5/13	猪岡悠児個展「時の清浄」油彩・アクリス
5/11-5/12	第19回 紙バンド作品展(さくら工房) 畠山直美
5/17-5/19	春の山野草展示会(大館山野草会) 会長:渡部清隆
8/23-8/25	日本教育書道会第39回秋田県北地区連合会「書道展」 (日本教育書道会)
8/31-9/2	全日本写真連盟大館支部写真展(全日本写真連盟大館支部)
9/4-9/8	水引アート作品展示会「春夏秋冬を結ぶ」立石正敏
9/17-9/18	年金組合35周年記念「いきいき作品展」(全日本年金者組合飯館支部)
9/21-9/23	フォト・コントラスト写真展(フォト・コントラスト)
9/27-9/29	猫のいる絵画教室メムージャ展(猫のいる絵画教室メムージャ)
9/27-9/29	大館焼窯元(大炎窯)40周年記念陶器店 窯元:加賀陶貞
10/4-10/6	2024写真クラブ 四季彩会(写真クラブ 四季彩会)
10/21-10/22	いけばな 池坊展(池坊 能代支部)
10/25-10/27	大館焼窯元(大炎窯)41周年記念陶器店 窯元:加賀陶貞
10/11-10/13	大川紀夫・金田英明・安保邦夫 三人展 主催:写真愛好会
10/18-10/20	秋の山野草展示会(大館山野草会)
10/18-10/20	フォトクラブシャドー 写真展(フォトクラブシャドー)

## 【大館郷土博物館】

〒017-0012 大館市釈迦内字獅子ヶ森1 Tel 0186-43-7133

7/13-8/18	田中孝一氏を偲んで 大館郷土博物館所蔵 戸嶋靖昌全作品展
-----------	------------------------------

## 【大館市立中央公民館】

〒017-0822 大館市字桜町南45-1 Tel 0186-42-4369

4/12-4/14	大館自然の会 写真展
7/12-7/14	春季蒼杉会展
10/5-10/7	第52回大館市文化財展覧会
10/18-10/20	第87回蒼杉会展
11/9-11/24	大館学び大学「自然と鉄道」写真展
12/13-12/15	アートバーゴラ展

## 【大館市立栗盛記念図書館】

〒017-0827 大館市字谷地町13 Tel 0186-42-2525

23/12/16-24/1/14	秋田大絵画展(ハチ公生誕100年)
2/1-3/29	門田由美子さん押し花アート展
4/2-5/31	明石洋一さんの絵画展
6/1-7/31	田山茂志さんの写真展
8/1-8/30	とっと工房アート展
9/1-10/31	布(テープ)絵とわたしの王冠展
12/4-25/1/31	秋オテ会花輪線鉄道写真展

## 【能代市旧料亭金勇】

〒016-0825 能代市柳町13-8 Tel 0185-55-3355

1/19-2/25	北前船と米代川舟運展
3/9-4/1	金勇展
4/19-6/4	嫁見まつり写真展
6/25-7/10	能代港開港50周年記念展示会(能代市主催)
7/13-8/18	能代の七夕展
8/31-10/15	能代市観光PR展
10/27-1/10	風の松原展
11/29-25/1/14	木都能代の父 井坂直幹展

## 【能代エナジウムパーク】

〒016-0807 能代市字大森山1-6 Tel 0185-52-2955

1/6 - 1/8	新春洋らん展(能代エナジウムパーク洋らん友の会)
1/13 - 1/14	新春盆栽展(能代盆栽会)
3/6 - 3/10	春の洋らん展(能代エナジウムパーク洋らん友の会)
3/23 - 3/24	雪割草展(能代白神山草会)
4/5-4/18	春を呼びこむ展(大塚範道)
5/1 - 5/15	絵手紙あかしや展(絵手紙サークル あかしや)
5/18 - 5/19	春の山野草展(能代白神山草会)
5/25 - 5/26	春季盆栽展(能代盆栽会)
6/8 - 6/9	さつき花展(能代さつき研究会)
5/18 - 5/31	ほのぼの絵手紙展(絵手紙教室こもれび工房)
7/6 - 7/7	うちょうらん展(能代羽蝶蘭会)
9/11 - 9/23	愉快的仲間写真展(八竜写真クラブ)
9/11 - 9/26	「みてさわってのしむ キンピアート☆」 (秋田県立近代美術館・出前美術館)
9/29	金魚展(伊勢文氏氏他)
10/12 - 10/13	秋の山野草展(能代白神山草会)
10/17 - 10/25	押花展(能代・山本地区押花愛好会)
10/26 - 10/27	さつき盆栽展8能代さつき研究会)
10/30 - 11/17	淡路利行写真展「白神夢幻」
11/2 - 11/4	秋季盆栽展8能代盆栽会)
11/22 - 11/24	秋の洋らん展(能代エナジウムパーク洋らん友の会)
11/22 - 11/29	地域学校展(秋田県立 能代支援学校)

## 【能代市市民ギャラリー】

〒016-8501 能代市上町1-3(能代市役所庁舎内) Tel 0185-89-2113

23/12/25-24/1/12	高校生ワークショップのグラフィックレコーディング展示
1/16-1/25	第二回 寿美の会書展
1/26-2/2	ほのぼの絵てがみ展
4/18-5/1	金勇フォトコンテスト2023 入賞・応募作品展示
5/7-5/21	レース編み(ドイリー)展示
6/10-6/28	教科書展示会
7/2-7/12	デザイン工房ひとさじ「ひとさじイラスト展」
7/16-7/26	フォト白神 写真展
8/5-8/15	「原爆と人間」パネル展
9/2-9/13	里親制度ポスター・パネル展示
9/17-10/1	世界アルツハイマーデー月間
10/15-10/29	能代警察署自転車用ヘルメットデザインコンテスト入賞作品展示
11/7-11/19	能代フォトグループ 写真展
11/22-12/2	人生会議の日
12/3-12/9	能代市障がい者ふれあい作品展
12/10-12/17	ディンプルアート(ガラス絵)作品展示
12/18-25/1/8	透かし折り紙作品展示

## 【能代市文化会館】

〒016-0842 能代市追分町4-26 Tel 0185-54-8141

2/10-2/12	高文連県北地区 作品展
5/11-5/12	能代山本合同書展
5/18-5/19	小原流能代支部 展示
6/15-6/16	華道家元池坊秋田県連合花展
8/3-8/4	郡市席書大会 展示会
9/21-9/22	MOA美術館 能代山本児童作品展
10/4-10/7	能代市公民館祭 展示
10/10-11/8	第60回市民芸術文化祭 展示
11/16-11/17	能代山本書道会 書道会
11/29-12/2	北羽美術展

## 【能代市二ツ井公民館】

〒018-3152 能代市二ツ井町字下野家後49 Tel 0185-73-2590

5/8-5/26	公民館ロビー展「照井勉の図画ロビー展」
5/24-5/26	個展「照井勉の図画の孤展の個展と展楽座」
7/25-8/27	公民館ロビー展「線がつながるアート展」
9/4-9/25	公民館ロビー展「野呂健人 絵の世界」
10/3-11/8	公民館ロビー展 「きみまち阪公園開園100周年記念フォトコンテストパネル展」
10/25-10/27	二ツ井地区文化祭展示

## 《県南》

## 【秋田県埋蔵文化財センター】

〒014-0802 大仙市弘田字牛嶋20 Tel 0187-69-3331

23/5/13-24/3/31	令和5年度企画コーナー展「埋文職員の自由研究」
3/2-3/12	令和5年度第3回出張展示「あきた遺跡発掘最前線! 2023」 (県立図書館)
4/26-25/3/31	令和6年度企画コーナー展「埋文あきた発掘展」
7/13-8/13	令和6年度第1回出張展示「弘田柵跡調査成果展」(県立図書館)
10/5-10/14	令和6年度第2回出張展示「土器に生ける秋の草花展」 (県立農業科学館)

## 【秋田県立近代美術館】

〒013-0064 横手市赤坂字雷ヶ沢62-46(秋田ふるさと村内) Tel 0182-33-8855

1/12-4/7	2023コレクション展第4期 雪月花のとき
2/3-4/14	企画展 アキタの書・その魅力
4/11-7/1	2024コレクション展第1期 美術館でいきましょう
4/20-7/15	特別展 岩合光昭写真展 こねこ
7/5-9/16	2024コレクション展第2期 水辺の風景
7/20-9/23	特別展 THE新版画 版元・渡邊庄三郎の挑戦
10/12-25/1/13	特別展 金曜ロードショーとジブリ展

## 【秋田県立農業科学館】 〒014-0073 大仙市内小友字中沢171-4 Tel 0187-68-2300

23/12/1-24/2/25	特設展示・秋田の発酵文化紹介展II
12/1-24/1/23	農業高校紹介・増田高校紹介展
12/7-24/1/28	研究機関紹介・農業試験場紹介展
1/6-2/25	特別展・洋ランフェスタ2024 “春を迎える”
1/12-2/12	農業高校紹介・西日高校紹介展
2/1-3/20	研究機関紹介・林業研究研修センター紹介展
2/14-8/25	農業高校紹介・大曲農業高校紹介
3/8-5/6	県立博物館連携展・「昔の道具-食卓の風景-」
3/9-3/10	公募企画展・春蘭展
3/9-3/10	公募企画展・夢花会雪割草展
3/15-3/31	特設展示・大島桜大釜展示
3/23-3/24	公募企画展・雪割草展
4/11-5/19	研究機関紹介・総合食品研究センター紹介展
4/28-29	公募企画展・日本の蘭エビネと日本桜草展
5/5-6	公募企画展・山野草展
5/23-7/7	研究機関紹介・畜産試験場紹介展
5/31-6/2	公募企画展・さつき盆栽花季展示会
6/1-2	公募企画展・さつき愛好会展示会
6/15-16	公募企画展・ベルクレイフラワー「四季の花」展
6/8-7/7	特別展・パラフェスタ”初夏を彩る”
7/2-9/8	特設展示・農業科学館のパラ紹介展
7/11-8/25	研究機関紹介・秋田県立大学紹介展
8/29-10/14	研究機関紹介・水産振興センター紹介展
9/1-9/29	農業高校紹介・増田高校紹介展
9/13-9/23	公募企画展・東京おしば会おしば美術展
9/3-10/31	特設展示・温室リニューアル展
9/21-10/27	特別展・オータムフラワーフェスタ
10/1-10/27	特設展示・秋田犬紹介展
10/1-10/31	農業高校紹介・能代科学技術高校紹介展
10/5-10/14	特別展・土器に生ける秋の草花展
10/17-12/1	研究機関紹介・果樹試験場紹介展
10/18-10/20	公募企画展・臈月盆栽秋季展
10/19-10/20	公募企画展・春蘭納物展
10/23-10/27	公募企画展・大仙農業を活躍展
10/29-11/9	公募企画展・大仙菊花同好会菊花展
11/7-11/17	公募企画展・西仙北ちぎり絵サークル展
11/9-11/30	農業高校紹介・あきた北鷹高校紹介展
11/22-25/5/11	特設展示・「あきた伝統野菜」紹介展
12/1-25/1/13	農業高校紹介・金足農業高校紹介
12/5-25/1/26	研究機関紹介・農業試験場紹介展

## 【羽後町歴史民俗資料館】

〒012-1131 雄勝郡羽後町西馬音内字上川原30-1 Tel 0183-62-5004

23/10/14-24/3/17	ウゴイルカのいた海 ～羽後町の化石展～
4/12-7/15	刀匠・篆刻家としての果 ～柴田果生誕140年記念 第1弾～
7/26-9/16	西馬音内盆踊り展
10/5-25/1/12	書画・俳句にみる果 ～柴田果生誕140年記念 第2弾～

## 【大曲交流センター】

〒014-0063 大仙市大曲日の出町2丁目-7-53 Tel 0187-63-1105

6/20-6/23	第109回 彩友会展示会
10/17-10/20	第50回 大曲書道会展示会
10/24-10/27	第110回 彩友会展示会
11/2-11/3	大曲地域文化祭
11/14-11/17	第7回 4絵画教室合同展
11/30-12/1	第55回 大曲仙北児童生徒美術展

## 【大村美術館】

〒014-0326 仙北市角館町山根町39-1 Tel 0187-55-5111

1/1 - 3/31	ルネ・ラリックとアール・デコのデザインアイテム
4/6 - 6/30	アール・デコ時代のフランスモダン
7/5 - 9/30	ラリックの装飾ガラスとアール・デコ
10/4 - 12/1	ラリックとアール・デコ博覧会
12/7 - 12/29	アール・デコのクリスマスとラリック

## 【川連漆器伝統工芸館】

〒012-0105 湯沢市川連町字大館中野142-1 Tel 0183-42-2410

11/14-11/17	「漆に美を求めて」 沓澤剛雄漆芸展
-------------	-------------------

## 【新潮社記念文学館】

〒014-0311 仙北市角館町田町上丁23 Tel 0187-43-3333

23/12/3-24/3/19	新館蔵品展
4/2-6/30	高井有一 夢の碑の周辺展
7/13-10/20	児童書ノンフィクション作家 池田まき子のあしあと展
11/2-25/3/19	没後一年 追悼西木正明展

## 【仙北市立角館町平福記念美術館】

〒014-0334 仙北市角館町表町上丁4-4 Tel 0187-54-3888

23/11/26-24/1/24	常設展 平福穂庵・百穂展
23/11/26-24/1/24	企画展 第46回児童生徒県南美術展
2/3-2/15	常設展 平福穂庵・百穂展
2/3-2/15	第11回仙北市総合美術展
2/23-4/5	常設展 平福穂庵・百穂展
2/23-4/5	館蔵品・寄託品展
4/12-6/23	常設展 平福穂庵展
4/12-6/23	企画展 平福百穂 絵画と短歌-百穂をめぐるひとたち-
7/2-9/23	常設展 平福穂庵・百穂展
7/2-9/23	企画展 馬場彬-まつろわぬ画家一展
10/1-11/12	常設展 平福穂庵・百穂展
10/1-11/12	企画展 佐藤悟日本画展-癒やしの風景を求めて-
11/28-25/1/24	常設展 平福穂庵・百穂展
11/28-25/1/25	企画展 第47回児童生徒県南美術展

## 【大仙市水神社】

〒014-0711 大仙市豊川字観音堂57 Tel 0187-56-7200

8/17	例大祭(秋田県唯一の国宝「線刻千手観音等鏡像」の公開
------	----------------------------

## 【大仙市アーカイブズ】 〒019-2335 大仙市強首上野台1-2 Tel 0187-77-2004

6/18-8/31	所蔵資料展「渡部分水家資料」
10/8-12/21	企画展「記録に残る大仙のスポーツ」
10/19-10/30	大仙市誕生20周年記念 大仙市アーカイブズ企画展 「大仙スポーツフォトヒストリー 1900-2024」

## 【南部老人福祉総合エリア(シルバーエリア)】

〒013-0525 横手市大森町字菅生田 245-34 Tel 0182-26-3880

1/16-1/31	「昔なつかしい・道具・写真」展
2/7-2/28	「采嘉書道教室」作品
3/6-3/31	ベアレー大仙「写友・光と影」写真展
4/6-4/20	「山田隆雄」写真展
4/25-5/26	「丸谷焼絵付け」写真展
6/1-6/27	「山下哲郎」絵画展
7/3-7/28	「押し絵と押し花の母娘」作品展
8/2-8/28	「和紙ちぎり絵」展
9/10-9/29	「ぼく・わたしのおじいちゃん、おばあちゃん」作品展
10/10-10/16	「横手支援学校」作品展
11/2-11/27	「ハンドメイド5人展」
12/5-12/25	「晶屋リメイク教室・生徒」作品展

## 【花火伝統文化継承資料館 はなび・アム】

〒014-0025 大仙市大曲大町7-19 Tel 0187-73-7931

23/8/1-24/1/28	大仙の花火師たち 第4回 株式会社北日本花火興業
23/8/8-24/1/28	大曲と土浦の友情物語
1/30-7/28	国際花火大会紹介展
2/6-5/26	大仙の偉人と花火大会展
7/30-25/1/26	大仙の花火師たち 第5回 株式会社小松煙火工業
6/4-10/27	昼花火のひみつ
8/6-25/3/30	大仙市と「大曲の花火」20年のあゆみ
11/2-25/1/26	大会を彩る花火

## 【美郷町学友館】 〒019-1404 仙北郡美郷町六郷字安楽寺122 Tel 0187-84-4040

1/13-2/18	秋田県美術展覧会 第21回仙北地域展
7/20-8/25	新作えほん原画展 永田萌の描く「みさと」
10/26-12/1	第4回美郷町所蔵品展-小西正太郎から大川清一まで- つながるコレクション展

## 【名勝 旧池田氏庭園】

〒014-0805 大仙市高梨字大嶋1 Tel 0187-62-6257(公開期間中)8972(公開期間外)

5/14-6/16	名勝指定20年 旧池田氏庭園保存整備の歩み
7/30-9/1	ふるさとの画家 男鹿和雄展 ～秋田大仙、遊びの風景～
10/16-11/17	だいせんの伝統行事 写真展

## 【横手市増田まんが美術館】

〒019-0701 横手市増田町増田字新町285 Tel 0182-45-5569

1/27-3/24	『大規模収蔵記念やくみつるのエキセントリック・ジャーニー展』
3/29-5/26	『原画収蔵記念 村上もとか展』
5/25-6/30	『マンガで観る、日本の暦原画展』
6/29-8/25	『EGAKU -draw the song- 展』
8/24-10/6	『美術館コレクション展～縁 YUKARI ～』
9/7-11/4	『あきづき空太デビュー 20周年記念 赤髪の白雪姫』原画展
11/9-25/1/19	『山田はまち原画展』

## 【湯沢市役所 本庁舎】 〒012-8501 湯沢市佐竹町1-1 Tel 0183-73-2111

12/25-24/1/5	流木龍展示 我流慕(がるぼ)佐藤泰幸
1/8-1/20	切り絵展示
1/22-1/29	釧路市との姉妹都市提携60周年記念展示
1/22-1/26	湯沢地区高校美術展
1/27-1/28	花くらぶキッズ運営委員会 いけばな展示
1/29-2/9	ゆざわジオパーク学習発表交流会展示
2/12-2/16	釧路市との姉妹都市提携60周年記念展示
2/13-2/17	情報発信研究作品展示
2/14-2/29	「税に関する絵はがきコンクール」展示会
2/24-3/5	作品展 和布のかたらい〜雪どけのころ〜
3/8-3/13	湯沢警察署 防災広報
3/11-3/13	情報発信研究作品展示
3/14-3/18	湯沢山岳会 山の写真展
4/1-4/13	七夕・犬っこまつり歴史写真展
4/30-5/17	消費者月間展示
5/2-5/16	七夕・犬っこまつり歴史写真展
5/20-5/27	湯沢警察署 県民防災の日におけるパネル展示
5/20-5/24	湯沢市写真協会 春季写真展
5/25-5/27	湯沢市華道会 春季いけばな展
5/28-6/5	里親啓発事業展示
5/31-6/6	禁煙週間展示
6/6-6/21	令和6年度教科書展示会
6/10-6/19	小町まつり献永歌展示
8/8-8/14	絵画教室作品展示
8/23-8/30	令和6年度 湯沢翔北高校文化部展
9/2-9/27	食生活改善普及運動月間・健康増進月間展示
9/4-9/8	書の教室 素堂 小中学生の書作品展示
9/9-9/27	世界アルツハイマー月間展示
9/9-9/27	自殺予防週間啓発パネル展
10/7-10/13	地域づくり活動団体紹介パネル展示
10/29-11/1	ゆざわジオパーク〜ジオベンチャー塗り絵展
11/4-11/7	ゆざわ子育てマルっと応援DAY情報展示
11/5-11/8	子ども読書活動パネル展
11/11-11/15	小学生の「税に関する習字」展
11/19-12/2	ACP普及啓発展示
11/25-11/29	絵画同好会「かきの会」油絵作品の展示
12/2-12/6	ゼロカーボン・食品ロス啓発展示
12/3-12/10	人権パネル展
12/21-12/25	新写真湯沢 写真展

## 【横手 Embroidery 美術館】 〒013-0031 横手市鍛冶町5-24 Tel 090-2993-1985

企画展示(手刺繍による鍋島段通の小品(花菱龍唐草中心柄蝶淡紺地、中心柄蝶濃朱地)と津軽ごぎん刺し)

常設展示(世界の刺繍コレクション)

## 【仙北市立角館榊細工伝承館】

〒014-0331 秋田県仙北市角館町表町下丁10-1 Tel 0187-54-1700

23/10/7-24/1/28	榊細工館蔵品・寄託品展
2/3-3/31	角館のひな人形展
4/6-6/16	打掛展
6/22-9/29	角館の伝統工芸品展
10/5-25/1/26	一大正〜昭和〜榊細工中興の祖 小野東三展

## 2025年 県内展覧会開催一覧

(令和 7年 1月～12月)  
※施設名 50音順

## 《県央》

## 【秋田県生涯学習センター】 〒010-0955 秋田市山王中島町1-1 Tel 018-865-1171

4/12-4/26	和紙人形(華姫)テーブルウェア
5/8-5/29	日本の笹切りアート展
6/6-6/27	パステル和アート展
7/1-7/21	野口禮「つぶやきの詩」
8/5-8/20	秋田県立栗田支援学校「地域学校展」
9/7-9/27	光と色彩のハーモニー展
10/11-10/31	秋田大学教育文化学部附属特別支援学校作業学習製品・作品展 「ギャラリーわかほと」
11/14-11/28	秋田市市民サービスセンター合同作品展

## 【秋田県公文書館】 〒010-0952 秋田市山王新町14-31 Tel 018-866-8301

5/29-7/1	平沢常富とその時代(秋田県公文書館秋田県立図書館連携展示)
8/1-12/26	地域連携展(大湯村干拓博物館)
8/21-9/28	連携展「記録史料にみる大地創造-大湯村アーカイブズギャラリー-」 (企画展前期)
10/2-11/3	連携展「記録史料にみる大地創造-大湯村アーカイブズギャラリー-」 (企画展後期)

## 【秋田県立図書館】 〒010-0952 秋田市山王新町14-31 Tel 018-866-8400

2/6-2/18	第50回秋田県芸術選奨受賞記念展 (秋田県観光文化スポーツ部文化振興課との連携展示)
3/1-3/11	あきた遺跡発掘最前線! 2024(秋田県埋蔵文化財センターとの連携展示)
4/11-5/20	稲穂の詩～秋田と米づくり～(秋田県立博物館との連携展示)
5/29-7/1	平沢常富とその時代(秋田県公文書館 秋田県立図書館連携展示)
7/12-8/12	色で見るあきたの歴史(秋田県埋蔵文化財センターとの連携展示)
12/11-26/1/20	四季を描く～近代美術館のレクシオンから～ (秋田県立近代美術館との連携展示)

## 【秋田県立博物館】 〒010-0124 秋田市金足嶋崎字後山52 Tel 018-873-4121

2/15-4/6	秋田の宝 県指定文化財展
4/26-6/15	昭和のアキター-百年のくらしをつづる-
7/12-9/7	ヨシタケシンスケ展かもしれない
9/27-11/16	かく、えがく。-菅江真澄遺墨資料展-

## 【菅江真澄資料センター 企画コーナー展】

24/11/30-25/1/26	地誌《月の出羽路仙北郡》を読む-2期-
2/8-3/30	初学者のための真澄展
7/5-8/24	目瀧巡る真澄-男鹿半島の三つの目瀧-
11/1-12/21	真澄の歩いた道《ひなの遊び》・《氷魚の村君》

## 【秋田の先覚記念室 企画コーナー展】

10/8-12/7	秋田の酒と人
-----------	--------

## 【遊学舎(秋田県ゆとり生活創造センター)】

〒010-1403 秋田市上北手荒巻字堺切24-2 Tel 018-829-5801

1/14-1/26	秋田県認定リサイクル製品展示PR事業
2/15-2/16	令和6年度山岳文化祭
2/23-2/24	譲渡猫の写真による同窓会
2/26-3/6	市民活動フェスタ2025紹介展示
3/8-3/16	3.11秋田交流会「語り継ごうinあきた」関連事業
3/19-3/23	昔着物トリメイク展
6/8	春のバラ観賞会
6/13-6/15	写真展「花と語らう」
7/10-7/18	かがやきの丘ミニ学校展
9/13-9/23	あきたスギツチファンダチャリティ絵画展
9/24-9/26	行政相談パネル展&相談受付
10/8	秋のバラ観賞会
10/11-10/13	秋田県秋石会 名石展
10/15-10/28	秋田市認知症グループホーム合同作品展
11/1-11/8	第54回秋田西部菊花同好会菊花展
11/14-11/16	秋の洋らん展
11/18-11/30	色鉛筆アトリエ歩 作品展2025
12/2-12/14	全県花だんコンクール写真展
12/16-12/26	秋田県認定リサイクル製品展示PR事業

## 【秋田県立美術館】

〒010-0001 秋田市中通1丁目4-2 Tel 018-853-8686

4/12-5/25	特別展 キボリノコンノ展 食べたい!木彫りアートの世界
〃	企画展 平野政吉コレクション 明治・大正の絵画
〃	平野コレクションI
5/30-7/13	企画展 将棋駒の世界-伝統工芸の美-
〃	平野コレクションII
7/19-9/7	特別展 ミネバネ!現代アート タグチアートコレクション
9/13-11/9	特別展 巨匠たちのパレット展
〃	平野コレクションIII
11/15-26/1/18	企画展 藤田嗣治×ファッション
〃	平野コレクションIV

## 【県民ギャラリー】

1/30-2/3	秋田公立美術大学 ビジュアルアーツ専攻3年 授業成果展
2/5-2/9	令和6年度 秋田公立美術大学附属高等学院 第72回生徒作品展 明日のクリエイターたち
2/13-2/17	秋田公立美術大学 卒業・修了展2025
2/21-2/23	よみうり高校生写真展2025
3/1-3/3	令和7年 第64回全県新年書きぞめ展
3/6-3/9	第50回 秀作美術展
5/31-6/2	令和7年度秋田県高等学校文化連盟写真部会主催 第45回秋田県高等学校写真連盟展
6/6-6/8	奏でる木工展
6/20-6/25	第67回 秋田県美術展覧会(写真部門展示)
6/28-7/2	AIAA展
7/4-7/6	伊藤康夫個展
7/10-7/13	第60回 自由美術秋田展 第41回 秋田二紀展
9/13-9/15	第3回 書友展
9/19-9/23	令和7年度 秋田県障害者芸術福祉展
9/29-10/7	戦後80年 昭和館 しょうけい館 帰還者たちのミュージアム 3館連携企画展
10/10-10/16	結人-MUSUBISHI-&結姫-MUSUBIME-
10/23-10/26	第64回 秋田県工芸家協会展 第17回 秋田工芸展
11/1-11/3	石川抱鶴書展-可能性への挑戦- 併催にいだこども図書館教室展
11/5-11/9	第69回 秋田美術作家協会展
11/20-11/24	第50回 全国高等学校総合文化祭(あきた総文2026) 写真部門プレ大会

## 【アトリオン(秋田県総合生活文化会館)】

〒010-0001 秋田市中通2-3-8 Tel 018-836-7803

1/10-1/13	毎日書道秋田新春展
1/16-1/19	近間義一 巳歳用年賀状イラスト原画展
1/17-1/19	第47回 瀾の会書展
1/17-1/21	第42回 茂逸書会展
1/22-1/26	国展100回記念企画 ファインアート秋田2025
1/29-2/2	秋田公立美大CD3年専攻展
2/7-2/10	秋田花の会 第38回「花の写真展」
2/7-2/10	第81回秋田南秋地区高校美術連盟展
2/13-2/16	のうん展「known:unknown」
2/13-2/16	藤田悦子フランススケッチ展
2/14-2/17	第12回エムケイ写遊写真展
2/28-3/3	全日本写真連盟秋田支部写真展
3/7-3/10	第24回 電友会写真同好会写真展
3/14-3/17	第63回 秋田市書道会展
3/14-3/17	絵画サークル『楽描』展
3/20-3/24	第6回グループTOPOS展
3/21-3/23	アキタネイチャーズクラブ作品展
3/21-3/23	第33回 菟の会写真展
3/21-3/24	写真を楽しむ半歩の会 第8回写真展
3/27-3/30	BAZAR.T きものリメイク「生徒作品展」
3/28-3/30	あとろえ瑠璃絵と仲間たち
3/29-3/31	第33回 墨峰書展
4/2-4/8	林美光・金銀銅空目金文化財展
4/4-4/7	友禅工房 風 作品展
4/11-4/13	第32回瀾の会小品展
4/12-4/13	手島泰六書展
4/12-4/14	第5回 川連漆器青年会展示会
4/18-4/21	第56回六葉会書展
4/24-4/27	彩美会展
4/24-5/6	第80回 春の院展 秋田展
4/27	Glass de Nao 作品展
5/7-5/11	チャーチル会秋田春季絵画展

5/8-5/12	第19回大同書展
5/9-5/11	春のバードウィーク野鳥写真展
5/16-5/18	花の世界 ラベリスフラワー個展
5/16-5/18	一東書道会展
5/16-5/18	アトリエぐらんべえる絵画教室作品展40th
5/23-5/25	津軽こぎん刺し作品展
5/23-5/26	第17回百合絵画会 日本画展
5/29-6/2	第23回漆人四人展
5/31-6/2	秋田能面づくり同好会 能面・狂言面展示
6/5-6/8	デザインと美術工芸の協奏
6/6-6/10	第57回秋田県医家美術展
6/20-6/25	第67回 秋田県美術展覧会
6/27-6/29	第8回三人展
6/27-6/29	写真展 太陽は友だち・南極の夏
6/28-6/30	合同絵画展
7/4-7/6	第29回秋田読売写真クラブ展
7/4-7/6	創作木版画展示会
7/4-7/6	星群美術教室展
7/4-7/7	全日写連秋田県本部受賞作品展
7/11-7/13	「四季の記憶」高橋健一写真展
7/12-7/14	第16回 秋田草心会書展
7/16-7/19	第63回秋田県造形美術展
7/26-7/27	秋大附属中学校美術部展
7/26-8/24	MINIATURE LIFE展2 一田中達也 見立ての世界ー
8/7-8/9	第42回全県高校書道大会
8/22-8/24	第12回星輪書展
8/29-9/1	第64回秋田県書道連盟展
8/30-9/1	第6回秋田の書展
9/2-9/7	圭刀の会(けいとうのかい)
9/4-9/8	秋田県絵画水墨画協会作品展
9/5-9/8	第40回書壇院秋田連盟展
9/10-9/13	第5回記念 水彩連盟秋田支部展
9/10-9/13	NTT-OB・OG 余技作品展
9/17-9/21	第87回 素心会展
9/18-9/22	第71回孝華書院展
9/18-9/24	林美光、金銀銅漆目金文化財展
9/20-9/21	秋田南中学校美術部展
9/24-9/26	第15回ディンブルアート合同展示会
9/26-9/28	芦野雅春・純子二人展
9/26-9/28	デザインの仕事展40th
9/26-9/28	藍の会 藍の絞り染め作品展
9/26-9/29	第15回伊藤美代子水彩画展
9/27-9/29	第31回フォト自由塾写真展
10/1-10/6	第68回秋田市芸術祭総合美術展
10/3-10/6	第1回 秋田金属工芸研究会展
10/3-10/6	秋田水墨画協会 第45回水墨画展
10/8-10/14	秋田県美術工芸協会第42回展
10/9-10/13	第20回泰書會 秋田展
10/25-10/29	第88回秋田書道展覧会
10/31-11/3	第57回恵花会日本画展
11/1-11/3	MOA美術館あきた児童作品展
11/1-11/3	第26回日写連秋田中央支部写真展
11/1-11/4	柴田義弘則子写画展 光の手触り
11/7-11/10	秋田県高校総合美術展 美術・工芸部門(あきた総文2026プレ大会)
11/14-11/16	秋のバードウォッチングウィーク写真展
11/14-11/16	第2回潟保絵画サークル展
11/21-11/24	第49回二科会写真部東北地区展
11/22-11/25	友禅工房風作品展
11/27-11/29	グループリベラのキルト展
11/28-11/30	潟保卓雄 26年鳥海山カレンダー原画展
11/28-12/1	貼り絵展:カケラ集メ
11/29-12/1	第24回 秋田一先会書展
12/4-12/7	表現する教師たち
12/5-12/7	金和子ナチュラルリース展VOL.34
12/12-12/15	魅せる新聞広告
12/13	Glass de Nao 作品展
12/19-12/21	月と遊ぶ蛙たち・小山下愛美展
12/20-12/21	秋田東中・勝平中美術部合同展

## 【秋田公立美術大学ギャラリー BIYONG POINT】

〒010-0976 秋田市八橋南1-1-3 CNA秋田ケーブルテレビ社屋内 Tel 018-888-8137

24/12/14-25/1/13	ピヨンセクション井上愛萌個展「インサイド」-地図帳より-
1/24-2/2	複合芸術会議2024 ガイド ライン (株)津田土木建設 会社説明会
2/13-3/9	社会連携事紹介展示「秋美×□」ジオカルチャー研究プロジェクト、能代北高跡地利活用可能性検討事業
3/15-3/30	秋田犬写真展 犬が苦手な秋田犬カメラマンの記録2019-2024
4/5-7/10	社会連携事紹介展示「秋美×□」 ドンパン娘シンボルキャラクター・ロゴ制作&クリエイティブラポー
7/19-8/4	「公園マルチバース展」藤澤秀一朗・根来日由吏 二人展
8/25-9/5	小谷真夕個展 「誰も見ていないのに、美しい踊りを踊っていると言えるのか」
9/12~9/22	藤澤秀一朗個展「R.カオスなアジアンヘイト」
10/4-11/3	ピヨンセクション曾田萌個展 深山僻地美術館通信「みどりの手」
11/8-12/7	ピヨンセクション藤原櫻和子個展「風の流るるかたわらに」
12/11-26/1/22	ピヨンセクション今野高流「虎日記」

## 【秋田公立美術大学サテライトセンター】

〒010-0001 秋田市中通2-8-1 フォンテAKITA 6階 Tel 018-893-6128

1/18-1/26	秋田公立美術大学大学院 複合芸術研究科 修士1年生後期経過展 Grafting ー接ぎ木ー
2/1-2/9	景観デザイン専攻3年次授業成果展 スケールする
2/13-2/17	秋田公立美術大学卒業・修了展2025「かけて、たして、ひいて、わって」
2/22-2/23	AKIBI ARTs MARKET 2025
3/7-3/30	卒業生シリーズVol.14 外からー発するー聴くー在るー 佐々木大空展
4/12-5/6	彫刻造形原論授業成果展
5/29-6/3	秋田公立美術大学アーツ&ルーツ3年授業成果展《もぐら》
6/8-7/14	KOMA展 vol.5
6/14-7/11	AUA Crafters サークル展「夢の層」
7/19-7/28	秋田公立美術大学大学院 複合芸術研究科 修士課程1年生 前期 研究経過展「日々の縁に手をそえる」
8/1-8/28	工房 雑がみランド2025
8/2-8/30	KOMA展 vol.6
9/2-9/15	第4回「美術のきほん〜秋田公立美術大学・附属高等学校 合同作品展〜」
9/23-9/28	秋田公立美術大学ものづくりデザイン専攻3年次授業成果展 「つぶつぶ」
10/3-11/8	KOMA展 vol.7
10/5-10/14	秋田公立美術大学学部2年有志展「奏-session-」
10/18-10/19	「風がもたらす空間的な作用に関する視覚的表現手法の開発」 研究成果展
10/29-11/24	卒業生シリーズVol.15「Shape of 」 Natsuki Goto glass work exhibition
11/14-11/21	KOMA展 vol.8
12/6-12/14	怪獣大図鑑展

## 【秋田市立赤れんが郷土館・勝平得之記念館】

〒010-0921 秋田市大町3-3-21 Tel 018-864-6851

## 【赤れんが郷土館】

24/11/30-25/2/24	企画展 秋田公立美術大学連携企画展「秋田アーツ&クラフツ」
3/1-5/11	企画展 所蔵品展 四季彩の街あるき
5/17-7/21	企画展 美の競演 華麗なる美人画の世界 前期展
7/26-9/28	企画展 美の競演 華麗なる美人画の世界 後期展
10/4-12/14	企画展 秋田公立美術大学連携企画展「秋田アーツ&クラフツ」
12/20-26/3/1	企画展 福を呼ぶ 中国版画の世界

## 【勝平得之記念館】

24/11/30-25/2/24	勝平得之記念館 秋田の自然と風俗 農村へのまなざし
3/1-5/11	勝平得之記念館 秋田の自然と風俗 秋田の伝統行事
5/17-9/28	勝平得之記念館 秋田の自然と風俗 四季の街
10/4-12/14	勝平得之記念館 秋田の自然と風俗 花の歳時記
12/20-26/3/1	勝平得之記念館 秋田の自然と風俗 農村へのまなざし

## 【関谷四郎記念室】

24/11/30-25/5/11	関谷四郎記念室 鍛金へのいざない 後期
5/17-12/14	関谷四郎記念室 鍛金へのいざない 前期
12/20-26/5/10	関谷四郎記念室 鍛金へのいざない 後期

## 【秋田市立佐竹史料館】

〒010-0876 秋田市千秋公園1-4 Tel 018-827-5075

10/25-26/3(予定) 佐竹史料館常設展

## 【秋田市立千秋美術館】

〒010-0001 秋田市中通2-3-8(アトリオン内) Tel 018-836-7860

24/11/23-25/3/16 美術の扉 千秋美術館コレクション  
 4/26-6/22 英国キュー王立植物園 おいしいポタニカル・アート  
 食を彩る植物のものがたり  
 7/19-9/7 ミネバネ!現代アート タグチアートコレクション  
 9/27-11/9 宇野亞喜良展 AQUIRAX UNO  
 11/22-26/1/18 「視線」で楽しむ美術

## 【岡田謙三記念館(常設)】

25/2/15-3/31 II期  
 4/26-6/22 I期  
 7/19-9/7 II期  
 9/27-11/9 III期  
 11/22-26/1/18 IV期

## 【秋田市文化創造館】

〒010-0875 秋田県秋田市千秋明徳町3-16 Tel 018-893-5656

1/8-1/11 第65回秋田県児童生徒美術展  
 1/23-1/25 1㎡で何しよう?プロジェクト  
 1/31-2/5 秋田公立美術大学 アーツ&ルーツ3年専攻展  
 2/9 手づくり作品展  
 2/14-2/17 秋田公立美術大学卒業・修了展2025  
 3/1-3/10 ORAeアキタファニチャー展示販売会2025  
 3/28-3/29 1㎡で何しよう?プロジェクト  
 5/11 ズームイン東部写真展  
 5/28-6/2 親の介護3年半の記録  
 6/1 糸と羊毛が紡ぐ魔法学校展  
 6/14-6/15 暮らしの彩り展2025  
 7/16-7/18 秋田公立美術大学ビジュアルアーツ専攻4年生前期研究作品展  
 8/3-8/4 秋田公立美術大学附属高等学院3年有志生徒作品展  
 「アイデンティティ」  
 8/9-8/11 成人式用振袖展示会  
 8/10 アートでつながろう  
 8/13-8/25 1/1000油谷コレクション  
 8/13-8/14 秋田公立美術大学附属高等学校2年有志生徒作品「WAVE」  
 8/18-8/22 スダナナミ個展 「い鳥海山の峰とおく」  
 8/30-8/31 第72回秋田市児童生徒作品展覧会  
 9/19 第50回全国高等学校総合文化祭 あきた総文2026ブレ大会情報部門  
 10/3-10/5 第41回全日本積穂俳画 秋田教室作品展  
 10/4-10/26 あきたなつかしれとろ散歩  
 10/17-10/18 ケアマフの会 カミツレ 展示会・譲渡会  
 10/18 糸と羊毛が紡ぐ童話展  
 10/19-10/30 "クリエイター・イン・レジデンス2025「風景のタペストリー」  
 成果発表/ラクミ・フィットリアニ"  
 10/20-10/24 ひとりポッチの文化祭  
 10/23-10/27 木村正樹 写真とオブジェ作品展 XIII. GLOBE IX 「背中の翼」II  
 (全玩具展)  
 11/5-11/6 着物地から作った 手作り作品展  
 11/7 ポーセラーツとつるし飾り展  
 11/9-11/14 秋田公立美術大学ものづくりデザイン専攻教員作品展「湧水地点」  
 11/15-11/16 写真展「Still / Once」  
 11/20-11/27 inFLUX -秋田公立美術大学助手展-  
 11/22-11/28 秋田公立美術大学ビジュアルアーツ専攻3年生課題展  
 「ひいて、照らして」

## 【秋田大学大学院国際資源学研究所附属鉱業博物館】

〒010-8502 秋田市手形字大沢28番地の2 Tel 018-889-2461

9/26-12/25 鐵山 TETSUZAN ～釜石鉱山と東北地方の鉄スカルン鉱床～

## 【新屋NINO】

〒010-1637 秋田市新屋扇町84-27 Tel 018-888-8478

2/13-2/20 3人展「いろいろ」  
 5/14-5/23 わたしわた展  
 6/17-6/23 秋美創作研究会サークル展  
 6/30-7/7 shēng  
 7/20-7/28 アーツ&ルーツ4年専攻展  
 11/1-11/10 漕いで、おいで。

## 【ギャラリーあい】

〒010-0911 秋田市保戸野すわ町3-27 Tel 018-864-7294

1/6-1/28 日本の美をみつめて  
 3/14-3/31 常設展  
 4/10-5/10 ポン・ボヤージュ・アートで良い旅を  
 5/22-6/17 絵画と親しむ時に  
 6/20-7/22 "伝え継ぐ幸せ"展  
 8/1-8/24 盛夏・国内外作家絵画展  
 9/4-9/23 塚本猪一郎の世界展  
 10/10-11/4 吉田直未の世界～世界遺産の旅の中から～  
 11/13-11/25 新作を愉しもう  
 12/11-12/23 ギャラリーあいから貴方へのクリスマスプレゼント展

## 【旧黒澤家住宅】

〒010-0034 秋田市檜山字石塚谷地297-99 Tel 018-831-0285

7/18-8/25 旧黒澤家住宅 写真パネル展「秋田藩ゆかりの文化財」  
 9/26-11/4 旧黒澤家住宅「武家の生活」展

## 【響画廊】

〒010-0001 秋田市中通2丁目1-22 Tel 018-833-6121

1/6-3/30 一詩・書・画一 押切順三展  
 4/5-6/29 馬場彬展(原始の言葉を掬う)  
 7/4-9/26 池田一憲(四季の詩)展  
 10/6-12/27 馬場彬&星野道夫読本展

## 【ギャラリー杉】

〒010-0921 秋田市大町1-3-27 Tel 018-866-5422

1/5-1/28 花暦展  
 1/30-2/11 竹淵まゆ個展  
 2/13-2/25 菅原綾希子彫刻展  
 2/27-3/11 逸見亜古銅版画展  
 3/13-3/25 村松航汰日本画展  
 3/27-4/8 渋谷重弘作品展  
 4/10-4/27 湯口絵美子日本画展  
 5/8-5/20 井上よう子作品展  
 5/22-6/3 毛利元郎油彩画展  
 6/5-6/17 小澤摩純の世界展  
 6/19-7/1 宝永たかこの世界展  
 7/3-7/22 大須賀勉作品展  
 7/24-8/11 金澤隆・小林範之日本画二人展  
 8/21-9/2 本多翔日本画展  
 9/4-9/23 藤原宇希子日本画展  
 9/25-10/7 小川和也作品展  
 10/9-10/21 濱岡朝子作品展  
 10/23-11/4 細迫諭テンペラ画展  
 11/6-11/18 西村芳弘彫刻展  
 11/20-12/2 第33回チャリティー・アート展  
 12/4-12/23 成田康油彩画展

## 【ギャラリー ブルーホール】

〒018-1504 潟上市飯田川飯塚字飯塚34-1 Tel 018-877-5772

5/10-10/25 日野沙耶展「Shadow of the Flame 新たな日本画への挑戦」

## 【コラボラトリー】

〒010-0921 秋田市大町3丁目1-12 川反中央ビル1階 Tel 018-866-1559

2/19-2/24 皆川嘉博展 -Rootsを刻む- Vol.2  
 2/27-3/2 永久の変遷 佐貫広空 作品展  
 3/7-3/9 Innocent Ghost ゆーひ ぶーにゃ 米沢 三人展  
 5/2-5/6 『そろそろ』抽象絵画 船木孝一展  
 5/15-5/18 妄想と想像 vol.2  
 5/23-5/25 MOMENT 佐藤知恵子 倉部早苗 二人展  
 5/30-6/1 「名前のない花」坪谷奈摘美 個展  
 7/3-7/6 etude2025 池田美術教室 社会人コース作品展  
 7/10-7/13 Albizia 小規模受注会2025 in 秋田  
 7/23-7/27 原田りりこ展2025『それぞれに夏』  
 8/15-8/24 言葉と体  
 9/4-9/7 土と石で描く 板絵・日本画展 &「話します会」福井安紀個展  
 9/12-9/14 魚津悠 関由美 2人展  
 9/18-9/21 「海の自画像」菅野幸恵 個展  
 9/26-9/28 「こころばえ」onステンドグラス 新作発表展示会2025  
 白のラオス展  
 10/15-10/19 ななてん  
 10/23-10/26 北の布物語 天野洋子の古布三昧展「秋」 やっぱり檻櫻が好き  
 11/21-11/24 八橋人形伝承の会 第11回 展示販売会  
 12/10-12/14 真坂人形展示販売会 ～真坂人形で冬支度2025～  
 12/17-12-28 秋田公立美術大学 映像作品展 Now Showing  
 12/29 デザ筋トレ忘年会 2025

## 【小松クラフトスペース】

〒010-0001 秋田市中通4-17-9 Tel 018-873-1118

1/24-2/2 複合芸術会議2024・インフォメーション  
 2/11-3/8 金漆-Gonzetsu-本間幸夫展  
 3/14-4/6 春を告げる更紗展  
 4/11-5/31 良き布と暮らす展  
 6/6-6/22 森悠紀子作陶展・ことほぐ  
 8/1-8/17 パーンロムサイ展  
 9/5-9/27 菅原匠・藍染展  
 11/7-11/22 伊藤祐嗣、百田輝二人展

## 【さきがけホール】

〒010-8601 秋田市山王臨海町1-1 秋田魁新報社1階 Tel 018-888-1800

1/30-2/2 第16回県新春書初め席書大会展覧会  
 2/1-2/5 2025全国地方紙新年号展  
 7/4-7/6 秋田水石同好会展  
 8/8-8/10 第66回全県児童・生徒席書大会展覧会(小・中学校の部)  
 10/31-11/2 県盆裁連合会「秋季盆裁展」  
 11/24-12/7 第17回新聞きりぬきコンクール入賞作品展

## 【にかほ市象潟郷土資料館】

〒018-0104 にかほ市象潟町字狐森31-1 Tel 0184-43-2005

5/27-26/5/24 象潟郷土資料館展示「『おくのほそ道』最北の地・象潟」  
 (象潟郷土資料館)  
 5/27-26/5/24 池田修三作品展「ここから」(象潟郷土資料館)  
 11/1-11/3 池田修三木版画展「うつろひ」(象潟公会堂)

## 【仁賀保公民館(むらすぎ荘)】

〒018-0402 にかほ市平沢字馬飼森30 Tel 0184-37-3121

1/1-4/30 展示無し  
 4/30-5/30 2025年写友にかほ写真展  
 5/30-7/2 つるし飾り  
 7/22-8/29 希望  
 8/29-10/17 作陶展  
 10/30-11/28 絵手紙でつながる楽し広がる楽しみ  
 11/28-12/26 SAKUVI ～天地創造、最初の七日間～

## 【本荘郷土資料館】

〒015-0011 由利本荘市石脇字弁慶川5 Tel 0184-24-3570

24/9/14-25/1/13 日本遺産「北前船展」 荒波を越えて絆いだ歴史と文化  
 ～北前船の残像～  
 2/8-4/3 北前船が運んだ本荘のお雛様展  
 4/26-8/24 ～戦後80年忘れてはならない戦争の悲劇～  
 昭和100年 - 平和を願う心  
 9/20-26/1/11 新市指定文化財 本城満茂に関する資料展  
 ～郷土の礎を築いた武将の真実をひらく～

## 【矢島郷土文化保存伝習施設 矢島町郷土資料館】

〒015-0404 由利本荘市矢島町七日町字羽坂64-1 Tel 0184-56-2203

11/23-2025/2/2 鳥海山の植物たち  
 2/8-4/6 城下町矢島のひなまつり  
 4/25-9/15 矢島が生んだ日本喜劇映画の神様  
 映画監督 斎藤寅次郎展 生誕120年記念  
 10/3-2026/2/1 昭和100年記念 写真で回想する矢島の100年史

## 【鳥海山木のおもちゃ美術館】

〒015-0363 由利本荘市町村鳴瀬台65-1 Tel 0184-74-9070

7/25-8/18 ゆり支援学校ミニ学校展  
 8/8-8/18 日韓児童交流絵画コンテスト

## 【由利本荘市文化交流館 カダール】

〒015-0076 由利本荘市東町15 Tel 0184-22-2500

1/23-1/24 第47回 由利本荘・にかほ地区高校美術書道展  
 2/1-2/5 第20回由利本荘美術展  
 3/15-3/17 第35回三道書道教室「書の作品展」併催  
 第14回TDK社友会 書道同好会書道展  
 3/29-3/31 加賀谷妙子水彩画教室展  
 5/9-5/11 第28回本荘押花すみれ会 押花絵展  
 5/16-5/18 第14回キヤノンフォトクラブ本荘 写真展  
 5/16-5/18 第38回春季盆裁展  
 5/16-5/19 第44回加藤新市絵画展  
 5/31-6/3 第20回新美会絵画展  
 6/6-6/9 第36回清芽会書展  
 7/12-7/13 本荘由利席書大会  
 8/22-8/25 第39回第一美術協会秋田県支部展&フリーアート展  
 8/29-9/1 第76回児水会展  
 9/14-9/16 第49回本荘陶芸クラブ作陶展  
 9/20-9/21 第53回由利本荘市児童・生徒科学作品展  
 9/26-9/28 全日本写真連盟秋田ゆり支部 写真展  
 10/18-10/19 第20回市民芸術文化祭展示部門  
 11/3-11/5 第39回秋季盆裁展  
 11/7-11/9 第37回本荘生涯学習創作展  
 11/15-11/17 本荘由利園工・美術の学び展  
 11/29-11/30 華道家元池坊由利本荘支部85周年記念いけばな展  
 12/15-12/16 2026年ぐるっと巡る鳥海山オリジナルカレンダー「鳥海燦々」原画展  
 12/22-12/26 「第34回高橋宏幸賞感想文・感想画コンクール」優秀作品展・  
 高橋宏幸原画展

## 《県北》

## 【いとく大館ショッピングセンター】

〒017-0044 大館市御成町3-7-58 Tel 0186-49-1717

2/8-10	第20回 県北地区作品展(秋田県高等学校文化連盟 県北支部)
2/12	作業学習製品販売会(比内支援学校)
2/14-2/28	税に関する絵はがきコンクール(公益社団法人 大館法人会)
3/15-3/16	令和6年度 大館北秋地区高等学校 三校合同美術展 (秋田県高等学校文化連盟 県北支部)
5/24-5/25	広島の高校生が描き・伝える「原爆の絵」展(新日本婦人の会 大館支部)
5/24-5/25	第20回紙バンド作品展(さくら工房)
5/17-5/18	みんなの花展2025(鮎小原流能代支部)
5/16-5/18	春の山野草展示会(大館山野草の会)
5/10-5/11	指書きアート 畠澤陽子個展+2人展(早川聖平・阿波野永人)(畠澤陽子)
8/22-8/24	書道展(日本教育書道会秋田県北地区連動会)
8/29-8/31	写真展(日本写真連盟大館支部)
8/30-8/31	三浦周 個展「んだな」(三浦周)
9/26-9/28	陶芸展(陶と響) 大館焼き&コーラスグループコラボ (大館焼き窯元大炎窯:芳賀陶貞)
9/20-9/21	猫のいる絵画教室「メムーシャ展」(絵画教室メムーシャ)
9/10-9/13	みんなのアート展(大館市教育委員会 生涯学習課)
9/19-9/21	ちりめん細工展示会(大館ちりめん細工教室)
10/17-10/19	陶と書の四人展「秋うらら」(大館焼き窯元大炎窯:芳賀陶貞)
9/20-9/22	フォトコントラスト写真クラブ展(フォトコントラスト写真クラブ)
10/11-10/12	昭和のプラモ(Mクラブ)
10/10-10/13	シャドー写真展(フォトクラブ・シャドー)
10/24-10/26	陶芸展(たのしい器)第42回大炎窯陶芸教室会員 (大館焼き窯元大炎窯:芳賀陶貞)

## 【大館郷土博物館】

〒017-0012 大館市釈迦内字獅子ヶ森1 Tel 0186-43-7133

2/1-3/5	大館郷土博物館 おひなさま展
7/19-9/23	未公開資料展 ～同時開催 歌麿・広重ほか浮世絵版画、大館と平賀源内、手柄岡持～

## 【大館市立中央公民館】

〒017-0822 大館市字桜町南45-1 Tel 0186-42-4369

4/10-4/13	大館自然の会 写真展
5/23-5/25	春季蒼杉会展
7/19-7/21	写楽の会 写真展
10/4-10/6	第53回大館市文化財展覧会
10/10-10/12	第88回蒼杉会展
10/31-11/2	アートパーゴラ展
11/15-11/16	第3回大館市小中学生書写展

## 【大館市立栗盛記念図書館】

〒017-0827 大館市字谷地町13 Tel 0186-42-2525

24/12/4-25/1/31	秋オチ会 花輪線鉄道写真展
2/1-3/28	あれから30年 阪神淡路大震災を新聞で振り返る特別企画展
5/1-5/30	風景写真展(作品提供:大館写真クラブ『花の会』成田輝夫氏)
7/1-7/31	「Mくん1さいおめでとう」展(作品提供:小笠原玲那氏)
8/1-8/31	安藤明氏切り絵作品展
9/2-9/30	田山茂志氏写真展
10/1-10/31	パッチワーク作品展(作品提供:畠山寿子氏)
11/1-11/30	仲谷建治氏写真展「写真で心楽しく 写真で心健康に」

## 【鹿角市歴史民俗資料館】

〒018-5201 鹿角市花輪字中花輪113 Tel 0186-22-7288

12/6-2/16	放浪の絵師 蓑虫山人 (本館主催)
2/18-3/9	ひな飾り展 (市教委)
4/12-6/15	大湯の町並み (本館主催)
6/18-8/8	花輪ねぶた (本館主催)
8/10-9/15	毛馬内の盆踊 大の坂節 (本館主催)
12/16-2/25	鹿角のカタギ (本館主催)

## 【小坂町立総合博物館郷土館】

〒017-0201 鹿角郡小坂町小坂字中前田48-1 Tel 0186-29-4726

6/1-6/30	新収蔵資料展
6/1-6/30	わが家のお宝展(郷土館友の会主催)
7/15-9/30	小坂七夕祭ポスター展
11/12-12/19	没後40年 伊勢正義展

## 【能代市旧料亭金勇】

〒016-0825 能代市柳町13-8 Tel 0185-55-3355

24/11/29-25/1/14	木都能代の父 井坂直幹展
1/25-3/5	北前船と米代川舟運展
3/15-4/22	金勇展
4/25-5/26	嫁見まつり写真展
6/6-6/29	べらぼう風展(主催:村井吉治)
7/5-8/27	能代の七夕展
8/31-9/15	令和7年度「日吉神社中の申祭・嫁見まつり」 第12回フォトコンテスト作品展(主催:能代観光協会)
9/27-11/4	能代市観光PR展
10/2-10/14	風の松原展(共催:風の松原に守られる人々の会、能代市旧料亭金勇)
10/20-11/10	佐々木ひでお口筆詩歌展～輝く秋の日に～ (主催:佐々木ひでお口筆詩画応援志隊)
11/15-12/28	井坂直幹と木都の今展

## 【能代エナジウムパーク】

〒016-0807 能代市字大森山1-6 Tel 0185-52-2955

1/11-1/13	新春洋らん展(能代エナジウムパーク洋らん友の会)
1/18-1/19	新春盆栽展(能代盆栽会)
3/5-3/9	春の洋らん展(能代エナジウムパーク洋らん友の会)
4/5-4/6	雪割草展(能代白神山草会)
5/17-5/18	春の山野草展(能代白神山草会)
5/24-5/25	春季盆栽展(能代盆栽会)
6/4-6/15	淡路利行写真展「白神の水音」
6/14-6/15	さつき花展(能代さつき研究会)
6/20-7/18	ほのぼの絵手紙展(絵手紙教室こもれび工房)
7/9-7/13	フォト白神写真展(フォト白神)
8/27-9/15	「みて さわって たのしむ! キンピアート2025」 (秋田県立近代美術館:出前美術館)
9/17-9/24	愉快な仲間写真展(八竜写真クラブ)
9/20-9/21	名月盆栽展(能代盆栽会)
10/2-10/13	押花展(能代・山本地区押花愛好会)
9/28	金魚展
10/18-10/19	秋の山野草展(能代白神山草会)
10/25-10/26	さつき盆栽展(能代さつき研究会)
11/1-11/3	秋季盆栽展(能代盆栽会)
11/8-11/9	能代・山本児童作品展(MOA美術館)※臨時休館のため中止
11/14-11/16	能代水彩画展(能代水彩画クラブ)
11/21-11/28	地域学校展(秋田県立能代支援学校)
11/22-11/24	秋の洋らん展(能代エナジウムパーク洋らん友の会)
11/28-12/3	「駒ヶ岳に鶴が舞い降りる」写真展(鶯谷勝洋氏)
12/20-12/21	「あのプラモデル展 外伝」(勝手に宇宙のまち能代をPR実行委員会)

## 【能代市市民ギャラリー】

〒016-8501 能代市上町1-3(能代市役所庁舎内) Tel 0185-89-2113

12/18-25/1/8	透かし折り紙作品展
1/15-1/21	デッサンの展示
1/23-1/31	能代支援学校 地域学校展
3/19-4/2	絵手紙グループ「こもれび工房」 ほのぼの絵でがみ展
4/18-5/2	「世界自然遺産と私たち」作文コンクール作品展
6/9-6/27	教科書展示会
7/1-7/11	里親制度ポスター・パネル展示
9/18-9/30	世界アルツハイマーデー月間
10/6-10/10	ディンプルアート(ガラス絵)作品展
10/20-10/31	フォト白神 写真展
11/5-11/14	能代山本障がい福祉協議会 事業所紹介パネル展
11/17-11/28	人生会議の日
12/3-12/9	能代市障がい者ふれあい作品展
12/11-12/23	能代フォトグループ 風景写真展

**【能代市ニツ井公民館】**

〒018-3152 能代市ニツ井町字下野家後49 Tel 0185-73-2590

7/19-8/31	公民館ロビー展「こころへの鳥っこたち」
9/13-10/26	公民館ロビー展「きみまちスタンプラリー写真展」
10/24-10/26	ニツ井地区文化祭展示
11/10-26/1/31	公民館ロビー展「野呂健人 絵の世界」

---

**【能代市文化会館】**

〒016-0842 能代市追分町4-26 Tel 0185-54-8141

3/15-3/16	キルトの会 パッチワーク展示会
4/4-4/6	淳美会 企画展「山」
5/2-5/3	北嶋弘遺作展
5/10-5/11	能代山本合同書展
7/18-7/20	能代市絵画展
8/2-8/3	郡市席書大会展示会
9/27-9/28	池坊能代支部創立85周年記念花展
10/10-10/13	公民館祭展示
10/17-11/3	第61回市民芸術文化祭
11/21-11/24	第58回北羽美術展

---

## 《県南》

## 【秋田県埋蔵文化財センター】

〒014-0802 大仙市弘田字牛嶋20 Tel 0187-69-3331

24/4/26-25/3/31	令和6年度企画コーナー展「埋文あきた発掘展」
1/25-3/16	令和6年度第3回あきた埋文出張展示 「古代城柵・弘田柵跡と横手盆地の集落遺跡」(雄物川郷土資料館)
25/3/1-3/11	令和6年度第4回あきた埋文出張展示 「あきた遺跡発掘最前線! 2024」(県立図書館)
4/26-26/3/31	令和7年度企画コーナー展「埋文あきた発掘展」
7/12-8/12	令和7年度第1回あきた埋文出張展示 「色で見るあきたの歴史」(県立図書館)
10/4-10/13	令和7年度第2回あきた埋文出張展示 「土器に生ける秋の草花展」(県立農業科学館)

## 【秋田県立近代美術館】

〒013-0064 横手市赤坂字富ヶ沢 62-46(秋田ふるさと村内) Tel 0182-33-8855

2/5-4/13	2024コレクション展第3期 空色ーうつりゆく景色
2/8-3/9	特別展 「みんなのキンピ」プロジェクト企画 笑う!はひふへほ展
3/15-4/20	企画展 Collection meets□□
4/26-6/29	特別展 杉山明博・60年の軌跡「発想のデザイン展」 親子であそぼ・木の面白ワールド
4/26-6/29	特別展 古代エジプト美術展
7/5-8/31	特別展 日本中の子どもたちを笑顔にした 絵本作家 かがくいひろしの世界展
7/10-10/5	2025コレクション展第1期 余白を愉しむ
9/13-11/9	特別展 みんなのMuseumプロジェクト企画 まるごと○展
10/9-26/1/4	2025コレクション展第2期 三浦明範 VERITAS
11/22-26/4/5	企画展 「キンピ写真コレクション」

## 【秋田県立農業科学館】 〒014-0073 大仙市内小友字中沢171-4 Tel 0187-68-2300

24/11/22-25/5/11	特設展示・「あきた伝統野菜」紹介展
24/12/1-25/1/13	農業高校紹介・金足農業高校紹介
24/12/5-25/1/26	研究機関紹介・農業試験場紹介
1/11-2/24	特別展・洋ランフェスタ2025 “春を迎える”
1/30-3/20	研究機関紹介・林業研究研修センター紹介展
1/15-8/29	農業高校紹介・大曲農業高校紹介
3/8-3/9	公募企画展・春蘭花物展
3/29-3/30	公募企画展・早春の雪割草展
3/11-3/30	特設展示・大島桜大釜展示
4/10-5/18	研究機関紹介・総合食品研究センター紹介展
4/19-4/20	公募企画展・特選シラネアオイと山野草展
4/26-4/27	公募企画展・日本の蘭エビネと日本桜草展
5/10-5/11	公募企画展・山野草展
5/17-5/18	公募企画展・あつもりそうと山野草展
5/22-7/6	研究機関紹介・畜産試験場紹介展
5/24-9/15	特設展示・わんわんパトロール隊隊員紹介展
5/30-6/1	公募企画展・さつき盆栽花季展示会
6/7-6/8	公募企画展・花季さつき展示会
6/7-6/22	特別展・バラフェスタ&グリクパーク
7/10-8/24	研究機関紹介・秋田県立大学紹介展
8/28-10/5	研究機関紹介・水産振興センター紹介展
9/2-9/30	農業高校紹介・能代科学技術高校紹介展
9/24-9/30	公募企画展・おしば美術「色紙額絵」展
9/20-10/26	公募企画展・秋田犬写真展
9/20-10/26	特別展・オータムフラワーフェスタ
10/1-10/31	農業高校紹介・金足農業高校紹介
10/4-10/13	特別展・土器に生ける秋の草花展
10/4-10/26	特設展示・ハロウィンレストラン2025
10/9-11/30	研究機関紹介・果樹試験場紹介展
10/10-10/30	ミュージアム連携出張展「昔のくらしと道具」(みんなのMuseumプロジェクト)
10/17-10/19	公募企画展・阜月盆栽秋季展
10/25-10/26	公募企画展・春蘭柄物展
10/28-11/8	公募企画展・大仙菊花同好会菊花展
11/5-11/30	農業高校紹介・秋田北鷹高校紹介展
11/8-11/19	公募企画展・西仙北ちぎり絵サークル展
11/8-12/21	特設展示・「〜みどり戦略〜『ころころまる』を紹介!」(東北農政局秋田県拠点)
12/2-26/1/9	農業高校紹介・増田高校紹介展
12/4-26/1/25	研究機関紹介・農業試験場紹介展

## 【石坂洋次郎文学記念館】

〒013-0005 横手市幸町2-10 Tel 0182-33-5052

1/16-3/30	令和6年度 石坂洋次郎文学記念館 ミニ企画展 保養地の洋次郎 伊豆編
1/20-3/9	令和6年度 石坂洋次郎文学記念館 出張ミニ企画展 保養地の洋次郎(市内図書館巡回展)
7/4-9/15	令和7年度 石坂洋次郎文学記念館 ミニ企画展 石坂洋次郎と葛西善蔵
9/19-26/1/18	令和7年度 石坂洋次郎文学記念館 企画展 洋次郎と昭和100年ー石坂文学で振り返る昭和ー
12-2/26/1/5(予定)	令和7年度 石坂洋次郎文学記念館 出張展示 小説「若い人」(生涯学習館Ao-na2階 展示ケースにて)

## 【羽後町歴史民俗資料館】

〒012-1131 雄勝郡羽後町西馬音内字上川原30-1 Tel 0183-62-5004

2/1-4/6	ひな人形展
4/27-7/13	80年目の平和展
7/26-9/15	西馬音内盆踊り展

## 【太田文化プラザ】

〒019-1613 大仙市太田町太田新田田尻3-4 Tel 0187-88-1118

5/24-6/8	鈴木空如筆 法隆寺金堂壁画展
----------	----------------

## 【大曲交流センター】

〒014-0063 大仙市大曲日の出町2丁目7-53 Tel

0187-63-1105	
6/19-6/22	第111回 彩友会展示会
10/24-10/26	第112回 彩友会展示会
11/1-11/2	大曲地域文化祭
11/13-11/16	第8回 4絵画教室合同展
11/28-11/30	第56回 大曲仙北児童生徒美術展

## 【大村美術館】

〒014-0326 仙北市角館町山根町39-1

1/11-3/31	卓上のアール・デコ -ルネ・ラリックのガラスとその周辺-
4/5-6/30	開館30周年記念所蔵品展 アール・デコ100年 -1925年アール・デコ博覧会から100年:ラリック父娘の作品を中心として-
7/5-9/29	ガラスのあかりとかおり -ルネ・ラリックのガラスランプと香水瓶を中心として-
10/4-12/28	スザンヌ・ラリックのアール・デコ -陶磁器の絵付けと父ルネとのガラス-

## 【雄物川郷土資料館】

〒013-0208 横手市雄物川町沼館字高畑366 Tel 0182-22-2793

1/25-3/16	古代城柵・弘田柵と横手盆地の集落遺跡
4/12-5/18	収蔵品展
5/24-7/27	ここまでわかった!!金沢城
8/9-26/2/1	横手のタカラ

## 【川連漆器伝統工芸館】

〒012-0105 湯沢市川連町字大館中野142-1 Tel 0183-42-2410

## 【国登録有形文化財 旧本郷家住宅】

〒014-1413 大仙市角間川町字西中上町19 Tel 0187-63-8972(平日)、0187-65-3535(公開期間中)  
10/15-11/3 大仙市江戸版本展 ～篤重・鶴屋「べらぼう」な世界～  
11/5-11/16 //

## 【後三年合戦金沢資料館】

〒013-0814 横手市金沢中野字根小屋102-4 Tel 0182-37-3510  
常設展のみ

## 【十文字歴史資料展示室】

〒019-0522 横手市十文字町西上24-1 Tel 0182-42-1345(十文字図書館)  
常設展のみ

## 【新潮社記念文学館】

〒014-0311 仙北市角館町田町上丁23 Tel 0187-43-3333  
24/11/2-25/3/19 没後1年西木正明展  
4/1-8/24 館藏品展 ～贈られたもの 伝えられたもの～  
8/2-8/17 出張ミニ展示 田沢湖によせて  
～千葉治平と坂本梅子のことば～(田沢湖クニマス未来館)  
9/5-11/8 角館高等学校創立一〇〇周年記念 百穂とアララギの歌人たち  
11/25-26/2/15 綴られた記憶 ～仙北市の四人の作家、その言葉と筆跡～

## 【仙北市立角館榊細工伝承館】

〒014-0331 秋田県仙北市角館町表町下丁10-1 Tel 0187-54-1700  
10/5-25/1/26 一大正～昭和一 榊細工中興の祖 小野東三展  
2/1-3/30 角館のひな人形展  
4/5-6/15 打掛展  
6/21-9/28 角館の伝統工芸品展  
10/4-26/1/25 榊細工館藏品・寄託品展

## 【仙北市立角館町平福記念美術館】

〒014-0334 仙北市角館町表町上丁4-4 Tel 0187-54-3888  
24/11/28-25/1/24 常設展 平福穂庵・百穂展  
24/11/28-25/1/24 企画展 第47回児童生徒県南美術展  
2/1-2/13 常設展 平福穂庵・百穂展  
2/1-2/13 第13回仙北市総合美術展  
2/21-3/30 常設展 平福穂庵・百穂展  
2/21-3/30 企画展 祈りの美術 河正雄コレクション報恩展  
4/8-6/22 企画展 水墨の美―穂庵・百穂父子墨画展―  
7/1-9/21 常設展 平福穂庵・百穂展  
7/1-9/21 企画展 草薨裕写真展 水を掬ふ  
10/1-11/12 常設展 平福穂庵・百穂展  
10/1-11/12 企画展 思い馳せる100周年―旧制角館中学校創立100周年記念展―  
11/28-26/1/25 常設展 平福穂庵・百穂展  
11/28-26/1/25 企画展 第48回児童生徒県南美術展

## 【大仙市水神社】

〒014-0711 大仙市豊川字観音堂57 Tel 0187-56-7200  
8/17 例大祭(秋田県唯一の国宝「線刻千手観音等鏡像」の公開)

## 【大仙市アーカイブズ】 〒019-2335 大仙市強首字上野台1-2 Tel 0187-77-2004

2/26-5/2 写真で振り返る地域のあゆみ～大仙市誕生20年と昭和の大会併～  
7/15-8/30 「昭和という時代」展 PART I 戦争の時代  
10/14-12/20 「昭和という時代」展 PART II 高度経済成長の時代

## 【南部老人福祉総合エリア(シルバーエリア)】

〒013-0525 横手市大森町字菅生田245-34 Tel 0182-26-3880  
1/11-2/13 「昔なつかしい」写真展  
3/1-3/30 ペアール大仙「写友・光と影」写真展  
4/2-4/20 かご編(クラフト・PPバンド)作品展  
4/29-5/25 「山田 隆雄」作品展  
5/31-6/25 「パッチワーク」作品展  
7/1-7/29 「紙バックで作る灯ろう、夢灯り」作品展  
8/1-8/27 ペアール大仙「写友・光と影」写真展  
9/2-9/20 「ぼく・わたしのおじいちゃん・おばあちゃん」作品展  
9/25-9/30 「和紙ちぎり絵」展  
10/10-10/30 ミュウジウム連携出張展「昔のくらしと道具」  
11/5-11/19 「横手支援学校」作品展  
12/4-12/24 「着物リメイク」作品展

## 【花火伝統文化継承資料館 はなび・アム】

〒014-0025 大仙市大曲大町7-19 Tel 0187-73-7931  
24/7/30-25/1/26 大仙の花火師たち第5回 株式会社小松煙火工業  
24/11/2-25/1/26 大会を彩る花火  
1/28- 4/27 いろいろな形の花火玉  
3/4- 6/29 『現代の名工』に選ばれた花火師たち  
4/29- 7/27 「大曲の花火」切手展  
7/1- 11/3 つなぐ 伝える 大会提供花火  
7/29- 10/5 昭和100年「大曲の花火」史展  
7/29- 10/26 おもちゃ花火展  
10/28- 26/1/25 大仙の花火師たち -番外編- 大久保煙火製造所  
11/5- 26/2/23 プログラム・ポスターでたどる「大曲の花火」展

## 【弘田柵総合案内所】

〒014-0802 大仙市弘田仲谷地95 Tel 0187-63-8972(平日) 0187-69-2397(開館期間中)  
4/26-11/16 弘田柵跡と池田家 ～秋田県内国指定史跡第1号の誕生～

## 【美郷町学友館】

〒019-1404 仙北郡美郷町六郷字安楽寺122 Tel 0187-84-4040  
1/18-2/23 秋田県美術展覧会 第2回仙北地域展  
3/11-5/6、7/8-8/24 美郷町合併20周年記念事業「シンボル絵画」および  
「美郷の四季」の展示  
6/8-6/22 第50回秋田県芸術選奨受賞記念展・巡回展  
10/17-11/16 浮世絵版画展 ～広重・月耕・巴水・松亭が描く時代の景色～

## 【名勝 旧池田氏庭園】

〒014-0805 大仙市高梨字大嶋1 Tel 0187-62-6257(公開期間中)8972(公開期間外)  
5/13-6/15 大仙市文化財保存活用地域計画展  
～文化財を知る・守る・活かす・支える～  
25/7/15-8/11 池田家野球部と池田家 ～世界少年野球大会開催記念特別企画展～  
25/9/17-11/16 //  
25/8/13-9/7 戦禍に消えた「池田文太郎翁銅像」 ～戦後80年記念展示～

## 【湯沢市役所 本庁舎】

〒012-8501 湯沢市佐竹町1-1 Tel 0183-73-2111

1/7-1/14	湯沢地区高校写真展
1/25-1/26	花くらぶキッズ運営委員会 いけばな展
1/27-1/30	湯沢雄勝地区高校美術部展
1/31-2/7	ゆざわジオパーク学習発表交流会展示
2/10-2/17	アキスター体験型事業 犬っこまつり歴史写真展
2/14-3/3	税に関する絵ハガキ展示
2/23-3/4	吊るしかざり作品展
3/5-3/12	防災パネル展
3/12-3/15	湯沢山岳会 山の写真展
4/10-4/19	アキスター体験型事業 セタまつり、犬っこまつり歴史写真資料展
5/1-5/16	消費者月間展示
5/31-6/2	湯沢市華道会 総合いけばな展
6/2-6/30	消費者月間展示
6/5-6/20	教科書展示会
6/17-6/25	小町献詠歌展示
8/18-8/21	第21回「日展作家と子どもたちの絵画教室」展示会
8/25-8/29	秋田県立湯沢翔北高校文化部展
9/1-9/5	里親制度啓発事業
9/1-9/5	書の教室 素堂 小中学生の書作品展示
9/8-9/26	健康増進月間・食生活改善普及運動月間展示
9/8-9/16	介護予防団体活動紹介展示
9/8-9/26	世界アルツハイマー月間展示
9/27-10/2	ゆざわ子育てマルっと応援DAY 情報展示
9/29-10/2	WOTABOX(ポータブル水再生システム)展示
10/21-10/24	ゆざわジオパーク～ジオベンチャー塗り絵展
11/6-11/17	子ども読書活動推進事業パネル展
11/11-11/17	小学生の「税に関する習字」展
11/21-12/5	ACP(人生会議)普及啓発展示
12/3-12/10	人権パネル展
12/6-12/10	絵画同好会「かきの会」油彩画展示
12/15-12/26	中学生日独交流事業記録写真展
12/16-12/21	新写真湯沢写真展

## 【湯沢市稲庭城】

〒012-0107 湯沢市稲庭町字古館前平50 Tel 0183-43-2649

9/10～10/27 キセキ作品展 ～城に隠れ潜む異空間～

【横手市交流センター Y<sup>2</sup>(わいわい)ぶらざ】

〒013-0036 横手市駅前町1-21 Tel 0182-32-2418

2/2～5	横手地区高校美術展
3/7～9	横手山岳協会 「山の写真展」
3/12-13	横手市老人クラブ連合会「趣味の作品展」
3/18～24	横手食育見聞録作文・図画コンクール作品展示
4/18～20	木村恭己 個展
5/2～4	墨絵の会 「水墨画展」
5/6	第6回 秋田県南造形展示会
5/9～11	真美会 「春の美術展」
5/26～30	消費生活展
6/8	「春のばら展」
6/27～29	彩の会 絵画展
7/25～28	横手の五人展
7/29～8/4	横手市夏季書席大会作品展示会
8/1～15	非校平和標語コンテスト入賞作品展
8/18	鐺作品展示会
9/20-21	表装掛軸同好会・黒川写真愛好会 合同展
9/27-28	横手地域市民文化祭
10/4	第52回 親善ばら会
10/17～19	日本教育書道会 県南地区連合会書道展
10/31～11/2	真美会 「秋の美術展」
11/8～13	税に関する習字展
11/18～20	第51回 横手市児童生徒美術展
11/29-30	小さな冬のクラフト展
12/15～18	高文連書道部会県南支部 「第42回県南地区高校書道展」
12/22～26	人権標語コンテスト 入賞作品展

## 【横手 Embroidery 美術館】

〒013-0031 横手市鍛冶町5-24 Tel 090-2993-1985

常設展示「世界の刺繍コレクション」

企画展示 ※15世紀から18世紀庶民の暮らしに広く親しまれるようになった刺繍作品を紹介(北ヨーロッパ スウェーデンのツピスト刺繍、ナーベルソム刺繍 デンマークのヒューダーボー刺繍 ノルウェーのハーダンガー刺繍 西ヨーロッパ イギリスのアイレットワーク、フランスのプチボワン 東ヨーロッパ ハンガリーのカロチャ刺繍 南ヨーロッパ ポルトガルのマディラ刺繍の展示)

## 【横手市増田まんが美術館】

〒019-0701 横手市増田町増田字新町285 Tel 0182-45-5569

11/9-25/1/19	『山田はまち原画展』
1/18-3/9	『矢口高雄原画展～原画の「魅力」と「価値」を考える～』
3/22-5/25	『【全マンガ原画収蔵記念展】江口寿史 ALL MANGA WORKS』
5/24-7/18	『K2 -500話&50巻達成記念特別原画展-』
7/19-8/31	『おジャ魔女どれみ25周年メモリアル展』
9/6-12/28	『WE LOVE MANGA ～全原画収蔵作家12人でたどるマンガの軌跡と進化～』



**No.61・62**

**秋田美術 第61・62号**

2026年3月31日発行

編集・発行 秋田県立近代美術館

〒013-0064

秋田県横手市赤坂字富ヶ沢62-46(秋田ふるさと村内)

TEL 0182-33-8855 FAX 0182-33-8858

美術館HP・X(旧twitter)は「秋田県立近代美術館」を検索!

本紀要の無断複製・複写・転載を禁じます。